

SSU

Shizuoka Sangyo University

教員研究紹介

2023



静岡産業大学

知の力で “未来”を動かす

あらゆるものがネットにつながる時代。

IoT（Internet of Things）やAI（人工知能）などの技術革新が進み、
経済システムだけでなく、人々の働き方や価値観、ライフスタイルなど、
私たちの日常がおおきく変化しています。

こうした予測不可能な社会で求められるのは、
社会的・経済的な価値を生み出すための「イノベーション（革新）」と、
さまざまな領域でイノベーションをおこせる「人材」です。

藤枝に「経営学部」、磐田に「経営学部」と「スポーツ科学部」を設置する
静岡産業大学の教育・研究、地域連携などの原点は、
すべて「地域社会や人々のために何ができるか？」から始まります。

未来の地域づくりに必要とされる人材育成はもちろんのこと、
教育や研究、アイデア、サービスなどの提供を通じて社会貢献を行い、
地域と住民、産業とともに発展・成長することを目指していきます。



県民大学宣言

- 01 静岡産業大学は、静岡県、磐田市、藤枝市、県内有力企業と多くの市民の支援の下に誕生し、静岡県、地域社会の為に貢献し得る有為な人材を育成、輩出することを付託された公器であることを常に念頭に置き、高水準の先端的な教育研究活動を展開します。
- 02 静岡産業大学は、大学の有する人材、教育力、研究力、知識、情報、アイデア、施設を広く提供し、静岡県、地域社会の発展に積極的に貢献します。
- 03 静岡産業大学は、静岡県、地域社会の発展に必要な知識、情報、アイデア、新産業の創造に積極的に取り組みます。
- 04 静岡産業大学は、産官学民各層の連携のもとに協力し合いつつ行動します。
- 05 静岡産業大学は、県民や、地域社会の住民が誇れる大学、"東海で小粒だがキラリと光るユニークな存在"になるよう常に進化、発展に努力します。



静岡産業大学

静岡産業大学ホームページ

<https://www.ssu.ac.jp>





静岡産業大学 連携活動事例

ACTION 1

卯年大絵馬「開運招福」 学生のデザインで地域を盛り上げる

藤枝市の歴史ある岩田神社の大絵馬を制作するプロジェクトも5年目となります。

今回は佐藤寛子准教授の「経営学特殊講義D」の授業で学生15人が制作に取り組みました。神社を訪ね、情報収集をし、コンセプトを構想。デザインの考案では造形に関する専門的な知識や技術を学びながら、画像処理ソフトを用いて制作しました。

卯年の絵馬に選ばれたデザイン案は、縦2m横4mの県内最大級の大絵馬として描き上げられ、岩田神社に奉納されました。

藤枝市の飛躍を願い、干支であるウサギが藤枝市の花である藤(フジ)をくわえ、赤富士に向かって飛び跳ねています。

地域と共に地域課題の解決を図ることを通して、地域のエンパワメント形成に取り組んでいます。

経営学特殊講義D、佐藤寛子准教授(P38参照)



ACTION 2

伝統工芸が 学生のアイデアで オリジナルグッズ誕生

2023年の大河ドラマ「どうする家康」に合わせ、浜松城と印傳屋(山梨県甲府市)と本学経営学部の熊王康宏教授のゼミ学生がタイアップして「家康つくしグッズ」プロジェクトに取り組みました。

これまで受け継がれてきた伝統工芸「印傳」の良さを守りつつ、学生が現代風にデザインをアレンジし、小銭入れやがま口財布、ペンケースなどの限定アイテムを制作しました。

学生は商品のイメージを表現することの難しさ、修正に次ぐ修正に、真剣に立ち向かうとともに、プロ職人の仕事に対する熱意、誠実さを目の当たりにし、無事、完成させることができました。このように産官学連携事業を推し進め、地域社会、産業の発展に努めてまいります。担当教員:熊王康宏教授(P36参照)



ACTION 3

話題のCNF、 企業×市×本学で 実用化を狙え

構造材・補強材として期待の植物由来の資源セルロースナノファイバー(以下CNF)。(株)大昭和加工紙業、UPPER'Z、富士市、本学経営学部の熊王康宏教授のゼミ学生とでCNFのよる高剛度紙を使っでの商品開発プロジェクトを結成しました。インバウンド需要に着目し、訪日外国人の日本の満足度を高めるため、日本古来からの行灯のサイドパネルのデザインを本学生が行いました。この行灯は、沼津市内のホテル内レストランに設置されています。

今年度は更なる新商品の開発、実用化に向けて邁進してまいります。

担当教員:熊王康宏教授(P36参照)



ACTION 4

若者の投票率向上に 学生が挑む

選挙権が18歳に引き下げられ5年が経過しました。

若者の選挙への関心、投票率の向上を目指して、本学のキャンパスが位置する磐田市と藤枝市の選挙管理委員会と連携し、佐藤寛子准教授と高城佳那准教授のゼミ学生が「投票済証明書」のデザインを考案しました。各市の歴史文化や地域の魅力を調べ、公職選挙法に則った表現となるよう、選管との打ち合わせを重ねました。一人でも多くの若者が選挙に興味を持ち、投票所に向かいもらえるよう、願いを込め、取り組んでいます。

担当教員:佐藤寛子准教授(P38参照)、
高城佳那准教授(P39参照)



ACTION 5

食事と運動で健康づくり 健幸プロジェクト 「ジュビロ飯」展開中

「ジュビロ飯」は、栄養バランスが取れた食事と適度な運動を合わせて楽しみ、市民の健康で幸せな生活「健幸(けんこう)」をめざして産官学民が連携して実施するプロジェクトです。地元食材を使いながらタンパク質とビタミンDを豊富に取り入れたメニューの提供と運動に関する情報をセットにした取組となっています。スポーツ科学部の教員と学生がこの活動に参加しています。

担当教員:スポーツ科学部長 高橋和子教授(P61参照)、
江間諒一准教授(P52参照)



「音楽遊び」の楽しさを 子どもたちへ！ “さんだいおんがくとどけ隊”

“さんだいおんがくとどけ隊”は、経営学部入江ゼミの保育士養成課程に在籍する学生が中心となって活動しています。パネルで作成した動物の動きに楽器の音を加えて、音と動きが一致する感覚を味わってもらったり、珍しい楽器を自由に鳴らし、その音を楽しんでもらうことを目的に企画・運営をしています。この活動を通して子どもと関わる保育の楽しさと難しさを体験し、実践力を培う場になっています。

担当教員:入江眞理准教授(P33参照)



地域の名所旧跡のすばらしさ、 銘菓のおいしさを伝えます！

島田市主催のイベント「和菓子バル」は地元の和菓子を活用したイベントを実施して、国指定史跡である川越遺跡の存在をPRするものです。このイベントのプロジェクトの一員として一翼を担うべく、マーケティングが専門の中山勝客員教授と地域活性化が専門の小泉祐一郎教授、地域学ゼミの学生が参加しました。教員と学生が現地や島田市の和菓子店などを訪問し、ポスターのデザイン、PR動画の撮影、SNSでの情報発信のほか、イベント当日のクイズラリーの企画・運営、着物での和菓子販売などに取り組みました。このように地域のイベントに計画段階から参画し、課題解決に連携して取り組む活動を県内各地で行っています。

担当教員:小泉祐一郎教授(P16参照)



特別研究支援経費

特別研究支援経費とは、本学における教育の質の向上・研究基盤の高度化に資するために、また、独創性・萌芽性のある研究の支援や若手研究者の研究を奨励するために、大学が交付する研究支援の助成金のことです。助成金の交付を希望する申請者の中から所定の審査に基づき採否を決定します。2022(令和4)年度は13件が採択されました。

【2022(令和4)年度採択プロジェクト】

研究テーマ	研究種目
保健体育授業におけるSTEAM教育とICT活用の実践的研究	教育の質の向上 独創性・萌芽性
ながら運動のエクササイズ効果	独創性・萌芽性 若手研究
交通系ICカードデータを活用した使用者実態の把握	教育の質の向上
女子体操競技選手のスポーツ外傷・障害予防に関する研究	教育の質の向上 独創性・萌芽性
スポーツボランティア活動への促進要因と阻害要因の検証	若手研究
SDGs時代に向けた「三方よし」による新たなインターンシップのプログラム開発	教育の質の向上
女子サッカー選手におけるGPSデータの活用に関する調査研究	研究基盤の高度化 教育の質の向上 独創性・萌芽性
生活環境の違いが高齢者の身体活動に及ぼす影響 知的障害者eスポーツクラブが当事者およびその家族へ与える 心理社会的影響に関する探索的検討	教育の質の向上 独創性・萌芽性
リトミックとメタ認知的活動の関係に関する研究	教育基盤の高度化 教育の質の向上 独創性・萌芽性
短距離走においてレース後半のスピード低下はなぜ起こるのか?	教育の質の向上 独創性・萌芽性
保育現場における保育者と給食担当者の協働と保育の質の向上: 「保育内容(人間関係)」の視点から	教育の質の向上
三島由紀夫の「戯曲」における語彙の稠密性に関する研究	独創性・萌芽性

冠講座（寄付講座）

静岡県に必要な人材を、大学と地域社会が一緒になって育てようという精神のもと、静岡県と関係の深い企業、団体、行政機関等から、お金ではなく、人材と最先端のビジネス情報を提供いただく講座です。冠講座（かんむりこうざ）は、2001（平成13）年度に磐田キャンパスの4講座からスタートし、20年以上続いています。企業等が抱える課題や業務内容、最新の取り組み事例など、現場にいるスタッフだからこそ語れる貴重な話を聞くことができるため、学生からの人気は高く、冠講座がきっかけで就職した学生もいます。

【2023（令和5）年度開講一覧】

	講座提供企業・団体	講座の内容
藤枝 キャンパス	株式会社静岡銀行	静岡県の産業、個人取引や法人取引の現状、地方創生への取組などを紹介し、経済の仕組みから銀行実務までを幅広く解説する。
	中部電力株式会社	エネルギー事業を取り巻く現状及びエネルギーに関する問題を正しく理解する。グループディスカッションを通して、理解を深める。
	株式会社電通東日本	広告の基礎知識とアクティブラーニングによる実践的な広告づくりで、体感的に広告を学ぶ。
	TOKAIグループ	人々の生活に密着した様々な商品サービスを展開し、日本全国へ営業を拡大している「多角化経営の現状」について紹介する。
	株式会社ブリヂストン	ブリヂストンの歴史に加え、世界規模の多国籍企業である現状、今後の戦略等を踏まえて、企業の現実の姿を学ぶ。
	静岡市	静岡市が持つ魅力や強みを理解し、自らの暮らす街をより豊かで住みよい街にするにはどうしたらよいか、考える。
	藤枝市	行政に携わる教員が、その実務経験を踏まえ、様々な事例を紹介し、アクティブラーニングの形式などを取り入れた教育を行う。
	静岡県行政書士会	「行政の役割と行政書士の仕事」について分かりやすく説明し、「官公署に提出する書類の作成」を日常生活で役立つように解説する。
	藤枝商工会議所・藤枝ロータリークラブ	地元企業の経営理念及び各業界の状況等、藤枝の商工業の特徴を理解する。また、企業倫理観、社会貢献の意味などの理解を深める。
磐田 キャンパス	株式会社ジュビロ	Jリーグやジュビロ磐田の実例を用いてプロスポーツの実態を理解するとともに、イベントの企画・運営を体験する。
	静岡ブルーレヴズ株式会社	スポーツイベントを企画、実践、運営するという実態にコミットすることにより、スポーツマネジメント・マーケティングの実際を学習する。
	スズキ株式会社	スズキ株式会社の歴史や企業活動を理解してもらうため、各部門の実務経験者が生産・販売など現場の状況を具体的に解説する。
	浜松いわた信用金庫	地域の魅力や価値を創出すること、また人を大切に当金庫の働き方改革など、持続的な成長を目指す活動について学ぶ。
	ヤマハ発動機株式会社	製造業の持つ役割と機能の認識を深め、モノがどのように市場に普及するか、国、地域による販売戦略の違いなどを学ぶ。
	磐田市	大地震、風水害等の被害にどう向き合えばよいのか、磐田市が講じている防災・減災対策等について学ぶ。
静岡県経済産業部	スポーツという視点を加えながら、静岡県の取り組んでいる「健康長寿」と「青少年の健康増進」に関する政策や考えを紹介する。	

連携協定の締結

静岡産業大学では、知識及び施設等を活用し、幅広い分野で地域社会の発展及び人材育成を図ることを目的に、キャンパスのある藤枝市や磐田市を中心に、県内各地の行政機関・団体・企業と各種協定を締結しています。

【主な協定先一覧】

- ・ 磐田市と静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [磐田市]
- ・ 藤枝市と静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [藤枝市]
- ・ 静岡市と静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [静岡市]
- ・ 焼津市と静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [焼津市]
- ・ 菊川市と静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [菊川市]
- ・ 静岡産業大学と磐田市体育協会との体育振興に関する協定書 [NPO法人磐田市体育協会]
- ・ 静岡産業大学と藤枝市体育協会との体育振興に関する協定書 [NPO法人藤枝市体育協会]
- ・ スポーツ・体育の振興に関する協定書 [一般社団法人袋井市スポーツ協会]
- ・ 磐田市総合病院と静岡産業大学との教育連携に関する協定書 [磐田市総合病院]
- ・ いわた元気っ子を育成するための教育・保育連携協定書（いわた元気っ子協定） [磐田市]
- ・ ティップネスと静岡産業大学とのスポーツ保育の推進に関する連携協定書 [株式会社ティップネス]
- ・ SDGs推進に関する包括連携に関する協定書 [藤枝市、藤枝商工会議所、岡部町商工会、三井住友海上火災保険株式会社]
- ・ 静岡ブルーレヴズと静岡産業大学との産学連携に関する協定書 [静岡ブルーレヴズ株式会社]
- ・ 静鉄ストアと静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [株式会社静鉄ストア]
- ・ 静鉄アド・パートナーズと静岡産業大学との包括連携に関する協定書 [株式会社静鉄アド・パートナーズ] など

静岡産業大学との地域連携や受託・共同研究などの総合窓口

静岡産業大学は「県民大学宣言(P2・P69参照)」を提唱し、静岡県、キャンパスを置く藤枝市や磐田市、近隣市町、県内の企業や商工会議所など、産・官・学・民との連携、協力を得て実施する地域連携、地域貢献を進めています。

本学が有する教員や学生などの人材の活用、教育力、研究力の提供をもとに地域の課題に取り組み、地域社会の活性化と発展、地域に貢献する人材育成に向けて、広く様々なご要望、ご相談に対する受付窓口として「地域連携室」を開設しています。

本学教員に研究を委託したい、共同研究したい、あるいは講演を依頼したいなどのご希望がある場合もお気軽にお問い合わせください。各教員が対応できる分野、テーマについては本書または大学ホームページ教員紹介ページでご確認ください。

【問い合わせ先】 総合研究所地域連携室 電話:054-639-7164 (BiViキャン) / E-mail:renkei@ssu.ac.jp

1) 「地域連携室」とは

「地域連携室」は、地域社会と大学を結ぶ相談受付窓口(コンシェルジュ)です。静岡産業大学と連携をしたいけれど、どこに連絡すれば分からないなどお困りの際は、総合研究所内にあります地域連携室をご利用ください。

例えば、次の事例のような依頼や問い合わせなどをお受けしています。

[相談例]

- ・自治体、企業、団体等の様々な課題解決事業(プロジェクト)の依頼
- ・市民などを対象とした研修会(パソコン研修や資格取得研修)の開催や講師派遣
- ・本学教員との共同研究や受託研究のための相談 など

2) 依頼手続きの流れ

STEP01 教員を探す

教員が不明の場合は本書から探していただくか、総合研究所地域連携室にお問い合わせください。大学ホームページで教員検索も可能です

※教員名で探す場合はP8を、キーワードで探す場合はP73、74をご参照ください。

STEP02 本学教員と事前の調整・確認

研究を委託したい、または講演を依頼したい教員が決まっている場合は、研究内容、期間、資金、講演内容等について直接教員とご相談ください。

※各教員の連絡先(E-mail)は大学ホームページでご確認いただけます。

(<https://www.ssu.ac.jp/faculty/teacher/>)

総合研究所地域連携室 電話:054-639-7164 (BiViキャン) / E-mail:renkei@ssu.ac.jp

STEP03 お申込み

教員と調整が済みましたら、総合研究所地域連携室までお申し込みください。

STEP04 受け入れ決定

学内で所定の審査などを行い、受け入れを決定します。

STEP05 契約締結

教員名検索

※五十音順にて記載

学長

堀川 知廣 専任教授 09

経営学部（藤枝キャンパス）

ア行

天野 利彦 専任教授 10

石垣 美佳 専任講師 11

岩本 武範 専任准教授 12

植松 頌太 専任講師 13

太田 さつき 専任教授 14

太田 裕貴 専任准教授 15

カ行

小泉 祐一郎 専任教授 16

小林 健一郎 専任教授 17

近藤 尚武 専任教授 18

サ行

佐野 典秀 専任教授 19

下田 明宏 特任教授 20

タ行

高橋 等 専任教授 21

田口 敏行 専任教授 22

谷口 正昭 専任教授 23

田畑 和彦 専任教授 24

塚本 博之 専任教授 25

土居 蘭子 専任教授 26

ナ行

永田 奈央美 専任教授 27

夏吉 裕貴 専任講師 28

野崎 英二 専任教授 29

法月 健 専任教授 30

マ行

牧野 好洋 専任教授 31

宮田 弘一 専任教授 32

経営学部（磐田キャンパス）

ア行

入江 眞理 専任准教授 33

カ行

川端 奈津子 専任准教授 34

久保田 貴之 専任准教授 35

熊王 康宏 専任教授 36

サ行

酒井 範子 特任講師 37

佐藤 寛子 専任准教授 38

佐野 典秀 専任教授 19

タ行

高城 佳那 専任准教授 39

谷口 昭彦 専任准教授 40

ナ行

丹羽 由一 客員教授 41

ハ行

日隈 美代子 専任講師 42

藤田 直樹 専任講師 43

堀内 慎一郎 専任講師 44

マ行

宮地 由紀子 専任准教授 45

ヤ行

山内 秋人 特任教授 46

山田 一之 専任教授 47

山田 悟史 専任教授 48

ラ行

劉 志宏 特任教授 49

スポーツ科学部（磐田キャンパス）

ア行

青木 優 専任教授 50

伊藤 麻希 専任講師 51

江間 諒一 専任准教授 52

小澤 治夫 特別教授 53

カ行

笠井 義明 専任准教授 54

木村 駿介 専任講師 55

清宮 孝文 専任講師 56

後藤 隆浩 専任教授 57

サ行

佐藤 知条 専任准教授 58

徐 広孝 専任准教授 59

寒川 恒夫 特任教授 60

タ行

高橋 和子 専任教授 61

館 俊樹 専任教授 62

ナ行

中井 真吾 専任准教授 63

中西 健一郎 専任教授 64

マ行

松永 由弥子 専任教授 65

宮崎 彰吾 専任准教授 66

ワ行

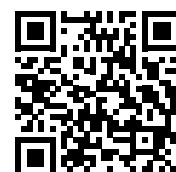
和所 泰史 専任講師 67

和田 雅史 専任教授 68

※キーワードから教員を検索する場合は、P73、P74を参照ください。

※大学ホームページ教員紹介URLは以下の通りです。

(<https://www.ssu.ac.jp/faculty/teacher/>)





堀川 知廣 HORIKAWA Tomohiro
ほりかわ ともひろ

職位	専任教授
取得学位	農学学士
最終学歴	名古屋大学農学部農学科卒業
専門分野	地域産業政策、農業政策、茶業政策
所属学会	日本農業経済学会、茶学術研究会、日本茶業学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの日本の農業経営 ・静岡県の地域産業戦略 ・世界市場を目指した茶業振興
検索ワード	農業政策、産業政策、茶業政策、地域振興

研究概要

県産業・農業行政の政策策定、地方自治体運営委員などの経験を活かし、産業・農業の新展開、市町の行政運営改善を進めたい。

農業、産業行政を主に担当してきた経験と人脈を活かし、公益財団法人静岡県茶業会議所理事、一般社団法人ニュービジネス協議会企画運営委員、公益財団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム理事、県史編纂委員等の他、藤枝市と磐田市の委員会などの委員に加え、経済団体などの研究会などにも所属しており、静岡を日本のモデルと捉え、今後の産業や地域について、政策、技術、人材の各方面から振興方策を探り、行政機関や産業界などに積極的に提案していくこととしています。

また、大学では、地域の産業の中心となって活躍する人材育成のための実践的教育を行いたいと考え、地域産業の振興戦略、多彩な農産物を生産している静岡の農業の振興策などを研究対象としています。特に、本県の茶産業は、明治以来、日本の茶産業のリーダーであり、近年、生活様式の多様化や変化の中で戦略的転換を求められていますので、世界市場をターゲットにした新商品や新技術の研究を他産業とも連携し進めたいと考えています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 DX(デジタルトランスフォーメーション)による中小企業の経営改革(藤枝市)、遊休農地を活用した農業(ゼミ研究)、静岡県史編さん(委員)、高等学校教育改革推進(榛原高校)など

【連携可能内容】 静岡県の高校生の1/4が県外の大学等に進学し、大学卒業後も半数弱が戻っていません。若者が戻りたくなるような静岡県としていくには、若者に魅力がある産業や文化の創造が必要です。行政、経済界、大学が協働して、住みたく・働きたくなる静岡づくりを進めたいと考えます。

【SDGsの視点での連携可能内容】 大学は知恵の集積場であり、多様で先端的な研究が行われる場です。SDGsの17の目標に取り組むために大学のもつ情報を活用してもらいたいと考えます。静岡産業大学だけでも60人以上の先生たちが多様で幅広い研究を行っています。学長として、皆様からのご要望には、できる限り応える大学にしていきます。

【その他】 静岡産業大学は県民大学宣言をしている大学です。経済団体や行政の課題には先生方の専門を活用してどんなことでも対応することができます。



天野 利彦 AMANO Toshihiko
あまの としひこ

職位	専任教授
取得学位	文学修士
最終学歴	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得満期退学
専門分野	欧米文化研究、記号学、国際情報学
所属学会	Royal Institute of International Affairs
近年の研究テーマ	世の中にあふれている様々なシンボルについて、その機能や歴史的背景、文化的価値の考究およびグローバリズム
検索ワード	国際関係、記号学、文化学、フランス語フランス文学

研究概要

価値観の多様性と広がりを「記号現象」として、 歴史文化的な厚みから説明する

ポール・ヴァレリーというフランスの現代詩人が、人間の知性の働きや創造力を言葉の力として説明したことがきっかけとなって研究を始め、彼の業績を踏まえて発達した「詩学」や「記号学」の分野での先行研究を追ううちに、「記号」の「記号」たる由縁である「記号現象」の在り方に関心が湧き、そこに歴史文化的な背景があることを把握しました。

「記号現象」の在り方には文化ごとの特徴があり、その原因として歴史性を無視することはできません。ルネサンスに端を発した改革・革命の連鎖である「近代化」の過程は、今なお進行中であり、「近代」の生み出した工業社会・市場社会・大衆社会の先鋭化は加速しています。現代社会における「記号現象」もこれらの社会的諸相のなかで、かつての「記号」が持っていた力から変化しているといえるでしょう。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 SSU総研主催公開講座「フランス語講座」、静岡県海外駐在員報告会基調講演及びファシリテーター、藤枝市文化振興協議会会長、藤枝市治験審査委員会外部委員、令和2年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業共同研究「藤枝セレクション」、藤枝市日中友好協会会長 など

【その他】 藤枝市社会教育委員(9年間)、藤枝市総合病院治験審査委員会外部委員、藤枝市文化振興協議会会長、藤枝市日中友好協会会長など歴任



石垣 美佳 ISHIGAKI Mika
いしがき みか

職位	専任講師
取得学位	修士（経済学）
最終学歴	静岡大学大学院人文社会科学研究所修士課程修了
専門分野	会計
所属学会	日本商業教育学会、日本会計研究学会、中小企業会計学会
近年の研究テーマ	・企業結合 ・税法（酒税法） ・中小企業会計
検索ワード	税理士、中小企業、企業結合、資格取得

研究概要

企業結合のメリットを有効活用するには。 税法を知ることが、企業経営につながる!

近年、企業の合併、株式交換、株式移転、会社分割等の企業結合が盛んに行われています。企業結合は企業だけではなく、利害関係者にも大きな影響を与えます。どの手法がその企業に最善の方法なのか、そして企業結合後の企業の問題点は何かを中心に研究しています。企業経営は利益を目的としています。利益が出れば税金がかかります。法人企業は法人税、消費税、個人企業は所得税、消費税、資産に関しては、資産税として、事業承継に関わる相続税、建物・土地などの固定資産税と、それぞれの税金が企業に関係します。経営者のみならず、企業に関係する人達が、税金を税法から考えることで、企業経営につながると考え、税法をそれぞれの方面から研究し、最近では酒税法の改正で企業からの立場だけではなく、消費者側からも研究を行っています。

また、中小企業会計について、中小企業がコロナ禍のなかで、さらに収束後についてもどのように経営を行っていくのか、会計の観点から研究しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 公民館での簿記の勉強会、静岡商工会議所簿記講師 など

【連携可能内容】 以下のような内容のお手伝いが可能です。

- ・日商簿記、税理士、公認会計士など資格取得講座
- ・旅行、観光に関わる資格取得、勉強会
- ・中小企業の方との勉強会

【その他】 現在、ゼミや課外活動を通して税理士を目指す学生の支援を行っており、実際、在学中に税理士科目を取得した学生もおります。簿記が中心ですが、各資格取得に向けたアドバイスができると思います。



岩本 武範 IWAMOTO Takenori
いわもと たけのり

職位	専任准教授
取得学位	博士（工学）
最終学歴	京都大学大学院工学研究科博士後期課程社会基盤工学専攻修了
専門分野	マーケティング、ウェルビーイング、産業イノベーション、都市社会学
所属学会	日本都市計画学会、土木学会、日本マーケティング学会、日本創造学会、日本イノベーション融合学会、ウェルビーイング学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイングを企図した「まちづくり」 ・人や社会の課題を解決するマーケティング戦略 ・意思決定の質を高めるデータの集め方と使い方
検索ワード	都市社会学、ニューロマーケティング、行動経済学、ウェルビーイング

研究概要

「幸せなまちづくり」を通じて、 人と社会の課題を解決するマーケティングを研究しています。

「データ分析は占いである」と、ある経営者に言われたことが、研究者になったきっかけです。これをご覧になる皆さまは、どう考えるでしょうか。一見、間抜けな発言のように思えるかもしれませんが、それが実態なのかもしれません。データとは、あらゆる活動の結果であり、それを導くプロセスを組み合わせることで、情報となります。つまり、データを分析することは、私たちの営みを科学的に振り返り、未来に向けた意思決定の質を高めることにつながります。

しかしながら、「データ分析は占いである」と発言した経営者が、間抜けなのではありません。わが国の多くは、あらゆる意思決定をする際に、どのようにデータを集め、解釈し、情報に昇華させるのか、その経験が不足しているのです。言い換えれば、間抜けなのではなく、実態であるということなのです。人工知能に代表される科学の発展が、今後私たち人間の営みに、どのような影響を与えるのか、それを現時点では明言できません。

しかし、いつの時代も、過去が現在をつくり、そして未来へつながります。

このような時代だからこそ、意思決定の質を高める研鑽を惜みず、データを正しく扱える人が一人でも多く誕生するよう、教育や研究に励んでおります。そして、それがウェルビーイングに貢献すると信じています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 藤枝市民大学データマーケティング講師、健康版EBPMを企図した生活者のログデータ収集に関する論考、災害用備蓄品のDX化及び再利用に関する検討、静岡市立城北小開校40周年記念講演など

【連携可能内容】 デジタル戦略を用いたスマートシティ構想、情報とデータを活用した事業イノベーション、モビリティサービス（交通ネットワーク再編）のリデザイン、パーソナルデータを用いた需要と産業のマッチングなど

【SDGs視点での連携可能内容】 不要を必要に変え経済環境を発生させる産学官連携プロジェクト、人や社会の課題を解決するマーケティング思考をテーマとした研修、受託研究、市民のウェルビーイングを企図した自治体向けEBPM（政策策定）研修講師、受託研究

【著書】 Public Transport Planning with Smart Card Data (CRC Press 2016年度:分担著書)、なぜ僕は4人以上の場になると、途端に会話が苦手になるのか(サンマーク出版 2017年度)

【その他】 静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクト代表幹事(2021)、静岡市「しずまえ」ブランディングの取り組み(地域課題解決研究 2022～)、磐田市版「ウェルビーイング指標」に関する代表研究者(受託研究 2023～)



植松 頌太 UEMATSU Shota
うえまつ しょうた

職位	専任講師
取得学位	修士（メディア表現）
最終学歴	情報科学芸術大学院大学（IAMAS）メディア表現研究科修了
専門分野	インタフェースデザイン、メディアデザイン、映像制作、グラフィックデザイン、ブランディング
所属学会	日本デザイン学会、メディア総合研究所、情報文化学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語要素によって構成されるUI/UXデザインの研究 ・モーショングラフィック及び映像における快適性の研究 ・ディスプレイメディアにおけるインタラクションの研究
検索ワード	デザイン、メディア・リテラシー、映像制作、スマートフォン

研究概要

クリエイティブ実務を媒体として 教育研究へ寄与する

クリエイティブ領域（デザイン・映像制作など）は、コンピュータの普及と性能向上に伴い、広く大衆化しました。今日においてはスマートフォンひとつでも映像制作や投稿だけでなくライブ配信等まで可能になり、一般的に利用されるようになりました。こうした現状においての問題点を3つ挙げるのであれば、第一にメディアを利用する側（ユーザ）のリテラシーが追いついていないこと、次にこれまで各界のプロフェッショナルたちが生み出してきた数々のクリエイティブ作品へ対しての権利意識教育がなされていないこと、最後に前記した2つの事柄も相まって「モノをつくる者」としての倫理観や経済観念が欠如していることが挙げられます。

私はとりわけ若年層が、適切な情報の発信の仕方・受け取り方を身につけることを趣旨としつつ、クリエイティブ領域に親しみを持ってもらえるような教育研究活動と制作活動を続ける所存です。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 藤枝市市章リファインおよびビジュアル・アイデンティティ制定、藤枝市地域特産品ブランド「藤枝セレクション」ロゴマークオブザーバー・アドバイザー、静岡県経済産業部農業局お茶振興課 ライブストリーミング送出実務、静岡県ChaOIフォーラム シンポジウム登壇 など

【連携可能内容】 自治体/企業等団体における包括的なデザインガイドラインの制定・制作実務、GUIデザイン全般（スマートフォンアプリモックアップ制作等）、メディアを横断した包括的なデザインコンシャスなブランディング戦略立案、有資格者としてのドローン操縦を用いた映像撮影・編集等

【SDGs視点での連携可能内容】 ペーパーレス広告の立案・制作



太田 さつき OTA Satsuki
おおた

職位	専任教授
取得学位	博士（心理学）
最終学歴	青山学院大学文学研究科博士後期課程心理学専攻修了
専門分野	産業・組織心理学、社会心理学
所属学会	日本心理学会、産業・組織心理学会、日本社会心理学会、日本応用心理学会、日本キャリア教育学会
近年の研究テーマ	・ワークコミットメント ・大学生の就業意識
検索ワード	働く、組織、マネジメント、キャリア

研究概要

働く人と組織を win-win 関係にするための研究

人は生活時間の多くを働くことに費やしているため、「働く」を研究することは人々の生活向上に役立つと信じています。それが働く人々の心理や働く前の準備段階にある大学生の就業意識を研究テーマにした理由です。

働く人の心理と組織 働くのは稼ぐためだけではありません。人や社会と関わったり、能力を活かして世の中に貢献したり、働く理由は様々です。働くことで充実感や達成感が得られ、成長したという実感も得られます。仕事がストレスになることも多いのですが、仕事でストレスが軽減することもあります。働く人々の仕事への向き合い方をうまくマネジメントすることで組織のパフォーマンスが上がります。私の研究テーマは、組織がどのようにポジティブな働き方を引き出せるか探ることです。

多様な人材と組織 働き方は働く人々のおかれた状況や価値観によって異なるので、組織は働く人々を皆同じように扱うわけにはいきません。多様な人々を受け容れるのは難しいことですが、多様な考え方や能力を活かすことで組織が活性化し、組織の実力が上がります。多様な視点で組織内や組織を取り巻く環境をみることで、問題や誤りを発見できます。多様な人々のやりがいを高めてコミットメントや生産性を引き出すことができれば、組織のパフォーマンスが向上するので、組織と働く人々はwin-winの関係になれるのです。最近始めた女性のキャリアの研究には、多様な人材のマネジメントを視野に入れています。

大学生活と働く準備 大学生は学生生活の中で、働くことへの姿勢が作られます。どのような学生生活の過ごし方が働く準備となるのかについても研究しています。働く準備が整うことで、自分にとって心地の良い仕事や組織を選べるので、その手助けをしたいからです。

連携可能内容等

【連携可能内容】 大学生が仕事生活にスムーズに移行し、社会で活躍する人材になるには在学中の職業経験が大切です。インターンシップは職業経験の一つですが、アルバイトの方が効果的という研究が増えています。大学生のキャリア教育を、企業のアルバイト人材の確保と定着に結びつけ、産学共同の人材育成をする仕組みを考えています。

【SDGsの視点での連携可能内容】 職場の「ジェンダー平等を実現する」ためのお手伝いができます。「働きがいも経済成長も」は、私の研究テーマそのものです。従業員の働きがいを、組織の成長に結びつけるお手伝いを致します。働きやすさと両立させることで、持続可能な成長となります。

【その他】 アンケート調査を設計・分析することによって研究を行っています。職場の問題発見や解決、従業員の心の健康維持や定着、パフォーマンス向上のためのアンケート作成や分析について、ご相談に応じます。



太田 裕貴 OHTA Yuuki
お お た ゆ う き

職位	専任准教授
取得学位	博士（経営学）
最終学歴	大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程(グローバルビジネス専攻)修了
専門分野	財務会計
所属学会	日本会計研究学会、日本経済会計学会
近年の研究テーマ	株式価値評価に関する実証研究
検索ワード	経営者、投資、コーポレートガバナンス

研究概要

経営者による効率的な企業投資の意思決定とは？

株式会社制度において、株主は資金を経営者に提供するかわりに経営を彼らに委託します。経営者は株主の利潤最大化を達成するための意思決定を行うべきとされますが、自身の私的便益の向上を優先して株主にとって望ましくない選択をする可能性があります。これをエージェンシー理論と呼びます。

企業投資に関しては、以下の2点がエージェンシー理論で導かれます。第1に、経営者が自身の私的便益を追求し、株主の利潤最大化につながらない過剰投資を行うことです。これは経営者による「帝国建設」(empire building)と呼ばれます。第2に、経営者が株主の利潤最大化につながる投資計画を実行しないことです。背景には、経営者が自身の地位を安定にすべく、リスク回避的になることが挙げられます。これは経営者の quiet life 仮説と呼ばれます。企業投資に関するこれらの意思決定は非効率な企業投資として、企業価値を棄損する可能性が高いことがアカデミックの世界で証拠づけられてきました。

私が上記のテーマを研究している理由は、それが社会的意義を有すると考えるからです。株主が拠出した資金が企業価値の向上ではなく経営者の私的便益のために用いられることが日本企業において常態化すれば、株主は企業に対して自らの資金を提供することを敬遠するようになるでしょう。このような状況を避けるためには、企業が資金提供者である株主の価値を向上させる効率的な企業投資を実行することが必要です。現在、日本企業において非効率な企業投資がそもそも実施されているのか、仮に実施されている場合はどのような理由によるものか、を実証的に明らかにすることを試んでいます。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 藤枝市の魅力ある企業探索book

【連携可能内容】 起業家や企業の財務担当・金融機関との資金調達、投資政策に関する相談会、勉強会、高校生や社会人、一般市民の方を対象にした日商簿記検定講座

【SDGsの視点での連携可能内容】 環境問題(カーボンニュートラル・プラスチックごみ削減など)に取り組む企業に資金を呼び込むための方策の検討および実践(コーポレートファイナンス理論に注目して)、SDGsウォッシュを駆逐するために必要な経営者としての考え方のレクチャー、起業家への資金調達レクチャー(SDGsを出発点とする恥ずかしい思考をやめよう)

【その他】 SDGs×実学教育URL <https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/practical-science/business/>



小泉 祐一郎 KOIZUMI Yuichiro
こいずみ ゆういちろう

職位	専任教授
取得学位	博士（公共政策学）
最終学歴	法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程公共政策専攻修了
専門分野	法学、公共政策学、人文地理学、地域学
所属学会	静岡地域学会、日本行政学会、公共政策学会、ローカル・ガバナンス学会、日本計画行政学会、日本公法学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の行政評価の変遷と今後の展開方向 ・土地利用制度と現実とのギャップを解消するための方策 ・静岡県中部都市圏における都市機能の充実の可能性
検索ワード	地域探究、地域再生、自治体経営、まちづくり

研究概要

地域の将来のための地域特性の分析と ビジョンの構想、戦略の構築と勇気ある第一歩

静岡県は、東京と名古屋・大阪の中間に立地するメリットを享受して発展してきましたが、今日では、その立地上のデメリットも強くなっており、地域の特性を生かして魅力を高めることが益々重要になっています。約 30年間にわたり、全国の地域活性化の取組みを各地のキーパーソンと出会いながら調査研究し、現在も国の外郭機関である地域総合整備財団のアドバイザーをはじめ、自治体へのアドバイスをを行いながら調査研究をしています。

全国では様々な創意工夫を凝らした取組みが展開されていますので一例を紹介します。

北海道恵庭市の恵み野地区では、住宅の庭の花めぐりが観光資源となり、国内外から訪れています。写真は、年間3,000人以上が訪れるお宅。



連携可能内容等

【過去の連携実績】 地域総合整備財団地域再生事業アドバイザー、静岡県コミュニティづくり推進協議会専門推進委員、日本都市センター分権時代の自治体の条例のあり方検討委員会委員、御前崎市議会議員研修会講師 など

【連携可能な内容】 自治体の総合計画・都市計画・地域政策・政策法務・行政改革等のアドバイス、地域再生や地域のリノベーションに関するアドバイス、高等学校における地域の歴史・文化・自然・産業等の地域資源の探究の講義、自治体職員・議会議員の研修会の講師 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 人が住み続けられる都市づくりの方策の検討、産業と技術革新の基盤をつくるための産業振興策の検討、働きがいのある地域社会の形成のための方策の検討

【その他】 沼津市・熱海市・伊豆の国市・牧之原市・菊川市・御前崎市の総合計画審議会会長、静岡市・島田市・川根本町・袋井市・森町の行政改革審議会会長、静岡市・御殿場市・菊川市・湖西市の都市計画審議会委員、静岡県企業局経営評価委員会委員、静岡県ひとり一改革審査委員などを歴任



小林 健一郎 KOBAYASHI Kenichiro
こばやし けんいちろう

職位	専任教授
取得学位	理学博士
最終学歴	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻（博士課程）修了
専門分野	物理学、情報科学
所属学会	日本物理学会、情報処理学会
近年の研究テーマ	・ストリング理論 ・場の理論の圏論的定式化
検索ワード	物理学、数学、圏論

研究概要

ヤン・ミルズ理論とストリング理論

物質世界の根本原理・構造を理解するための試みとして、場の理論やストリング理論があります。場の理論の1つであるヤン・ミルズ理論は「物理理論の数学的拡張の試み」でしたが、今では最も成功した物理理論となっています。ストリング理論は、ヤン・ミルズの形式ではとらえがたい重力までを矛盾なく説明しようとする理論です。

これらは「現実世界を説明する理論の候補」という役割を超えて数学に大きな影響を与えました。一方、数学の物理学への寄与は当然のことながら計り知れません。私は物質の究極理論と純粋数学の両方に興味を持っています。特に興味があるのは対称性とその表現論などの圏論的視点からの研究です。これらの理論が社会に還元されることを願っています。

連携可能内容等

【その他】 いろいろな分野、レベルにおける「使える教科書」の発行に興味を持っています。

【著書】 新・これならわかるC++(平成18年10月.講談社)、新・これならわかるJAVA(平成20年10月.講談社)、まなびのとびら(平成25年3月.羽衣出版)、プログラミング20言語習得法(平成27年9月.講談社ブルーバックス) など



近藤 尚武 KONDO Naotake
こんどう なおたけ

職位	専任教授
取得学位	商学修士
最終学歴	慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得後退学
専門分野	貿易論・国際経済学
所属学会	日本貿易学会、日本港湾経済学会、日本経済政策学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・国際労働移民の研究 ・アジア諸国における頭脳流出と頭脳循環 ・欧州における国際労働移民 ・日本における外国人労働者など
検索ワード	国際経済、アジア経済、労働移民、外国人労働者

研究概要

グローバル化によって誰が利益を得て 誰が損をするのだろうか？

1980年代半ば以降、サッチャー政権のイギリス、レーガン政権の米国を中心にグローバリズムが推し進められ、その後世界全体に拡充しています。このグローバリズムの潮流をうまく利用した国家は相対的に繁栄し、乗り遅れた国は停滞しています。しかし、グローバリズムの進展は、投機マネーの肥大化によって世界各地で金融不安を引き起こし、世界金融危機をもたらしました。

また先進諸国内部において格差を拡大させ、その不満が移民の排斥を主張する排外主義を生み出すなど、社会不安を増大させています。このようなグローバリズムの進展とその矛盾が噴出する中で、日本はどのような方向をとるべきでしょうか？幅広い視点から考察していきたいです。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 講演「労働移民が受け入れ国の経済に及ぼす影響」静岡県行政書士会（令和3年12月7日）、
講義「iPhoneは米国製、中国製？」静岡商業高校（令和2年6月20日）

【その他】 磐田国際交流協会会員、浜松国際交流協会会員を歴任



佐野 典秀 SANO Norihide
さ の の り ひ で

職位	専任教授
取得学位	博士（工学）
最終学歴	東京工業大学大学院理工学研究科原子核工学専攻修士課程修了
専門分野	システム科学、人工知能、コンピュータグラフィックス
所属学会	日本原子力学会、日本機械学会、芸術科学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンの安定飛行のための姿勢制御 ・IoT デバイスを用いた情報提供サービス簡易システム構築に関する研究 ・エージェントシミュレーションを用いた避難行動分析
検索ワード	ロボティクス、意思決定、AI（人工知能）、遠隔授業・メタバース

研究概要

データサイエンスの活用で人の直感を予測に活かした ロボットと人工知能の利用で、人に優しい、豊かな未来を。

二足歩行ロボットの安定した姿勢制御。身近になってきたロボットを安全に生活の中で使えるように、歩行や、さまざまな動きを安定して行えるようファジィ制御を用いた姿勢制御について研究しています。ロボカップ・サッカーで活躍できるロボットを目指して、まずは片足で立ってボールを安定して蹴る動作から取り組んでいます。また、これらのロボット等を操作しやすい人間 - 機械系の実現のために、マンマシンインターフェイスの開発・評価に取り組んでいます。システムの安易な自動化は、人間に過大な負荷をかけ、人間 - 機械系を総合的に判断すると安全性が脅かされていることを機械の利用者である操作者へのアンケート調査と、ファジィ積分を用いた解析によって調べています。人間が行う判断・意思決定において、各評価指標（項目）とその重みの加重総和によって比較する方法があります。この加重総和を計算する際に、重みにファジィ測度を用い、人間の主観的な判断に近い、重み間の重なりを考慮した手法を調べています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 Pepperプログラミング講座（藤枝市内小学生向け、小学生親子向け、小中学校教員向け）、吉田町シニアカレッジ（人工知能（AI）の基礎—社会はどう変わる—）、未来型スキル教育支援事業（経営に活かすデータサイエンス入門講座）、富士宮市民カレッジ講師、公民館長クラス向け研修にてZoomを使ったオンライン講座の解説（県教委社会教育課）合わせて地域災害避難通信拠点や地域医療拠点への活用も提案、PyCon Shizuoka（Python Boot Campなどの実施推進）など

【連携可能内容】 プログラミング講座（Python、Scratch、Pepper、micro:bitなど）、ChatGPT入門講座、生成AI入門講座、データサイエンス入門講座、オープンデータとIoTに関する共同研究、ヒューマンエラーに関する共同研究 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 「4.質の高い教育をみんなに」ICTを活用した授業、データサイエンス教育、プログラミング教育、メタバースの活用など、「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」AIとロボットの活用で働き方改革推進

【その他】 静岡県ネット安全・安心協議会委員長、静岡県国民文化祭映像文化フェスティバル企画委員会委員長、私立大学情報教育協会情報教育研究委員会情報専門教育分科会委員、CG-ARTS協会協会委員、The 22nd International Conference on Artificial Intelligence and Soft Computing (in Zaczopane, Poland, International Programming Committee member)などを歴任



下田 明宏 SHIMODA Akihiro
しもだ あきひろ

職位	特任教授
取得学位	経済学士
最終学歴	國學院大學経済学部経済学科卒業
専門分野	地方自治、まちづくり
所属学会	
近年の研究テーマ	・人口減少社会における自律的な行政経営 ・地域コミュニティを主体とした共生社会の形成
検索ワード	地方自治、新公共経営、地域共生社会

研究概要

右肩下がりの社会経済情勢を生き抜く行政経営の在り方を考える

超高齢・人口減少社会を迎え、引き続き老年人口が増加を続ける中で年少人口、あるいは生産年齢人口の減少が危惧され、かつて経験したことのない国内経済・市場規模の縮小、いわゆる右肩下がりの社会経済情勢に時代は変わりつつあります。

住民の暮らしに身近な行政においても、減収懸念とともに、社会保障費等の扶助費の増加、あるいは公共施設等の更新費用の捻出が求められ、新たな行財政改革手法の確立が喫緊の課題と言えます。

こうした課題に対して、コストの縮減にただあえぐのではなく、労働生産性の向上をもって行財政改革を成し遂げる、職員の労働意欲と資質の向上により行政効果を高める新しい公共経営の在り方を研究していきたいと考えております。

連携可能内容等

【連携可能内容】 健全な組織風土の形成や健康経営の推進により労働生産性の向上を図る取組を研究したい。

【SDGsの視点での連携可能内容】 住民の主体的な参加と役割分担による地域共生社会の形成を具体的に実践する取組を支援したい。



高橋 等 TAKAHASHI Hitoshi
たかはし ひとし

職位	専任教授
取得学位	教育学修士
最終学歴	静岡大学大学院教育学研究科修士課程技術教育専攻修了
専門分野	情報教育、技術教育、教育工学
所属学会	日本産業技術教育学会、日本教育工学会、日本情報科教育学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシーの反転授業用 e-Learning 教材の制作と実践 ・IoT の技術と活用方法の理解を目指した学習教材の研究 ・Zoom を利用した遠隔コミュニケーションロボット – IoT 技術学習教材の開発– ・Stretch3 による AI の基礎実習 – Chromebook と Micro:bit を使用して–
検索ワード	情報教育、ICT、IoT、AI、プログラミング教育

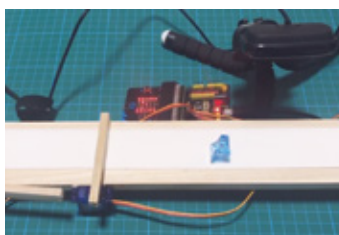
研究概要

ICT IoT AI データサイエンス プログラミング・・・ これからの社会を担う子供たちに何を支援したらいいのでしょうか

2020年から小学校でプログラミング教育が始まったことはマスコミの報道などでご存じと思います。また、年次進行で中学校技術・家庭科ではネットワークを利用した双方向性コンテンツのプログラミングが追加され、高校情報科でもプログラミングやデータサイエンスの内容が導入されます。更に大学入学共通テストへの情報科科目導入も計画されています。

子供たちの教育に情報分野の内容が増えるのは、近い将来、社会の情報化が更に進展して産業構造が大きく変わっても、ICTで自ら課題解決ができる人材を育てるためです。このように情報分野の教育は重要とされていますが、子供たちにプログラミングや機器制御を指導できる教員は質量とも足りず、その育成が課題となっています。

これまで情報教育に関する教材を開発するとともに、その教材を使用した指導法について提案し、教員研修を実施してきました。また、現在はこのような指導法を学校教育だけでなく、民間の子供向けプログラミング教室や社会人のリカレント教育にも対応できるよう実践研究を行っているところです。



連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・教員免許状更新講習講師「初めてのプログラミング」
- ・静岡県総合教育センター 共通教科情報「情報I」基礎研修講師
- ・島田樟誠高校 出張講義 「Pythonプログラミング入門」 など

【連携可能内容】 初等中等教育における、プログラミング教育やICT、IoT教育の教材開発、教員研修を、学校や教育委員会、教育関連企業と連携して取り組むことができます。



田口 敏行 TAGUCHI Toshiyuki
たぐち としゆき

職位	専任教授
取得学位	商学修士
最終学歴	慶應義塾大学大学院商学研究科経営学・会計学専攻博士課程単位取得満期退学
専門分野	経営戦略、経営組織、中小企業・ベンチャー
所属学会	日本経営学会、経営・イノベーション学会、国際経営学会、組織学会、 日本経営診断学会、非営利法人研究学会
近年の研究テーマ	・最先端デジタル時代のビジネスイノベーション ・AI や IoT の活用と経営戦略
検索ワード	経営戦略、AI、SDGs

研究概要

最新のビジネス環境と課題を明らかにし、 解決のための戦略や事例を提示する。

最近のデジタル化の浸透は目を見張るものがあります。ビジネスはもちろん、社会生活全般にわたりデジタル化が浸透し、「第4次産業革命」とか「ビッグバン・イノベーション」といった表現がされています。AI、IoT、ロボットなどの最先端技術が、製品やシステムと連動し、ビッグデータを収集・分析・活用しながら、これまでにない利便性と効率性を実現させています。

研究開発から製造、物流、販売といったビジネスプロセスに質的変革とイノベーションを及ぼしており、その分析と理解なくしてビジネスの課題設定や解決を考えていくことはできません。私の研究の関心とテーマは、そこにあります。アマゾンなどは、最先端のビジネスモデルとノウハウで変革をもたらすイノベーターとなっています。シェアリング環境やクラウド環境が広がる中、「所有から利用（レンタル）」を前提としたビジネスモデルが主流となりはじめ、スタートアップ企業の台頭も著しいです。

最新のビジネス環境とビジネス活動の本質をつかみ、事例を検証し、どんな戦略が重要となるのかを学ぶために役に立つ研究を目指しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 社会人ビジネス講座の講師、「藤枝おんぱく」（地域連携） など

【連携可能内容】 企業や行政のデジタル化の進め方（特に顧客のデータマネジメントやWEBマーケティング）に関する社会人講座などの講師としてご協力させていただけると幸いです。

【SDGsの視点での連携可能内容】 AI×データ分析による地域ビジネスに関わる講師、DX時代の人材像・求められるスキルなどに関わる講師、DX時代のマーケティングに関わる講師



谷口 正昭 TANIGUCHI Masaaki
たにぐち まさあき

職位	専任教授
取得学位	修士（教育学）
最終学歴	早稲田大学大学院教育学研究科国語教育専攻修士課程修了
専門分野	日本語教育学
所属学会	日本語教育学会、日本語学会、言語処理学会、計量国語学会
近年の研究テーマ	・留学生を対象としたライティングセンターの設立 ・対話を通じた第二言語ライティング能力の育成 ・三島由紀夫の語彙研究
検索ワード	日本語教育、異文化理解、留学生、日本文学

研究概要

「日本語習得の苦勞」…それを知れば、外国人の気持ちがわかります!

現在、関心のある研究テーマは「日本文学を通して学ぶ異文化理解」です。

私のゼミのメンバーは、全員留学生で、「日本語力の向上および異文化の理解」を目標に、毎週、様々な文学作品を精読しています。

小説には、評論文などと違って現実描写のほかに人物の心情描写が多くあります。日本人は自分の気持ちをはっきり言わないので、何を考えているか分からないという定評がありますが、登場人物が心の中で考えていることが逐一説明されている小説は、留学生にとって日本人理解の素晴らしいテキストになるのです。

読んでいる途中で、おかしくて笑ってしまったり、疑問や怒りを感じたり、ちょっとしみりさせられたり、思わず泣きそうになったり…。翻訳されたものを読んでいるわけではないので、それはまさに原語で文学作品を読んで、心が動かされているということになります。そういう体験は、苦しみながら外国語を学んでいる学生たちにとって、きっと深い喜びになるに違いありません。

できれば、「留学生のための日本文学」のような教材も開発したいと思っています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・平成元年度藤枝市「お茶の香ロード」映画会『日々是好日』朗読者
- ・平成2年度焼津市大村公民館主催の公民館講座講師
- ・平成26年度～令和元年度、各種教育機関日本語スピーチコンテスト等審査委員長及び審査員
- ・平成21年度、平成22年度、藤枝市委託研究「アジア交流促進事業」

【SDGsの視点での連携可能内容】

- ・外国人との共生社会を目指すための「異文化理解講座」講師
- ・外国人との共生社会を目指すための「日本語教室」講師
- ・外国人との共生社会を目指すための「日本語教師養講座」講師

【助成金事業実績】

- ・令和4年度ふじのくに地域・大学コンソーシアムゼミ学生等地域貢献推進事業「外国人とともに暮らす町内会の役割について」

【その他】 昭和63年度全国日本語教育機関振興協会日本語教育専門委員会委員、平成19年度藤枝市社会教育委員、令和4年度・5年度藤枝市郷土博物館協議会委員などを歴任



田畑 和彦 TABATA Kazuhiko
たばた かずひこ

職位	専任教授
取得学位	経営学修士
最終学歴	明治大学大学院経営学研究科（博士後期課程）単位取得満期退学
専門分野	人的資源管理論、人間関係論、組織モチベーション論、リーダーシップ研究の到達点、日本人の勤勉意識の源流、CSV 経営の今日的意義と課題
所属学会	比較文明学会、日本経営学会、日本経営倫理学会
近年の研究テーマ	・現代日本企業におけるモチベーションの創造と管理 ・日本人の勤勉意識の源流 ・中山間地域の産業振興
検索ワード	リーダーシップ、CSV、モチベーション、日本人の労働観

研究概要

関係性の構築、自己愛の充足、笑顔、期待、充実感の獲得。

人間そのものに興味を持っています。人は何に動機づけられ、行動するのか。お金か、名誉か、人とのつながりか。また、文化は人の思惟や行動にどのような影響を与えるのか。もし、人間を文化的、宗教的存在と捉えるのであれば、各国で有効な人事管理手法は異なるはずで。人事管理を有効に展開するためにも、知らなければならない現実です。

大学の講義では、精神分析学や心理学の最新の研究成果を踏まえ、あるべき人事管理、動機づけ手法を教えています。同時に日本人の行動を規定する思惟、いわゆる考え方と、なぜそれが形成されるに至ったのかを取り上げ、真に日本人に有効な人事管理手法を探っています。端から見れば、宗教の授業と言われるような内容も持っています。人事管理はリーダーに必要なだからと学びに来る学生だけでなく、自分という人間を捜しに講義に向かう学生もいます。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 中部地域経営会議「健康経営戦略プロジェクト」ワーキング・グループ座長、大規模造成住宅団地における空き家の活用方法（ゼミ活動）、川根本町レールパーク構想検討委員会コーディネーター、中部地域経営会議「広域観光推進プロジェクト」ワーキング・グループ座長

【SDGsの視点での連携可能内容】 CSV経営の今日的意義と可能性、健康経営戦略、ダイバーシティー経営の今日性

【その他】 農林水産省関東農政局広域農村総合整備基本調査委員、静岡県中小企業経済同友会講師、静岡市産学交流センター運営委員会委員、東海・北陸商店街交流サミット講師、大井川流域まちかど博物館推進委員会委員長など歴任



塚本 博之 TSUKAMOTO Hiroyuki
つかもと ひろゆき

職位	専任教授
取得学位	教育学士
最終学歴	横浜国立大学教育学部体育専攻卒業
専門分野	体育心理学、発育発達学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本学校保健学会、日本発育発達学会、 日本バレーボール学会、日本体力医学会、日本靴医学会、日本成長学会、 日本母性衛生学会
近年の研究テーマ	・近代バレーボールにおける戦術・ゲームの分析法 ・発育発達学（主に足跡）からみた体力の変遷
検索ワード	バレーボール、保健室、ロボット

研究概要

学校の保健室にロボットが… 健康相談活動支援システムの開発

学校の保健センターが行う学生の健康相談活動を支援するツールを開発しています。学校の保健センターというと、なかなか敷居が高くて行きにくいとか、プライベートな問題で相談しにくい、といった負のイメージを持っている学生も少なくありません。そこで、iPadを使って、Visual Analog Scale (VAS)を応用してアプリを開発し、保健センターの相談支援することを考えました。具体的には、精神活動に影響を与える快画像や不快画像、音楽や自然音、人工音を視聴させたときの加速度脈派を測定して自律神経活動を推定。これに VAS による主観評価を補足し、複合させた定量的表現を確立させました。

また、コミュニケーションツールとしては、タカラトミー社のオハナスを試行的に利用しています。コミュニケーションロボットの活用が学校の保健センター業務推進の一助となり、来室者のコミュニケーション改善につながるよう、現在基礎的所見を得る実験・研究を進めています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・バレーボール指導者養成講習会講師
- ・Vリーグ運営
- ・アスレジーナカップ企画運営
- ・スポーツゴミ拾い

【SDGsの視点での連携可能内容】 スポーツ界の暴力撲滅に関する講義



土居 繭子 DOI Mayuko
どい まゆこ

職位	専任教授
取得学位	修士（国際関係学）
最終学歴	静岡県立大学大学院国際関係学研究科国際関係学専攻（修士課程）修了
専門分野	日本語教育
所属学会	日本語教育学会
近年の研究テーマ	・日本語教育 ・非言語コミュニケーション ・多文化共生
検索ワード	日本語教育、多文化共生

研究概要

「外国語」として日本語を見てみると ～自分の日本語を見直す機会に～

私は普段、外国人に対する日本語教育を担当しています。

「りんごはおいしい」と「りんごがおいしい」という二つの文は、どちらも正しい文です。日本語を母語として話す人なら、二つの文をうまく使い分けて話していると思います。しかし、日本語を外国語として勉強している人には、この二つの文の違いは難しいかもしれません。

「外国語」として日本語を説明するには、日本語をよく観察しなければなりません。文法はもちろんのこと、言語の背景となる文化についても、どのように説明すればより理解を得られるかについて日々考えています。

このように、「外国人の視点」に立って言語や文化について考えることは、自分の話す日本語や文化について見直すよい機会になると思います。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 静岡県立浜松湖南高校（外部講師）、吉田町シニアカレッジ（外部講師）、お茶資源を活用した観光商品化に関する研究（島田市との連携、共同研究、2018年度）、富岳館高校意見発表会の審査員（2015年度、2016年度）、留学生等交流事業「話っ、輪っ、和っ!」アドバイザー（2013年、2015年、2016年）

【連携可能内容】 日本語教育に関して、勉強会など一緒に行うことが可能です。（特に取り組んでいるわけではありませんが、一緒に勉強できればこちらもありがたいです。）

【SDGsの視点での連携可能内容】 例えば、外国人が生活をする上で困難に感じる事、非常時にどんな支援があったら便利か、などを留学生と一緒に考えていくことができるかもしれません。



永田 奈央美 NAGATA Naomi
ながた なおみ

職位	専任教授
取得学位	博士（学術）
最終学歴	電気通信大学大学院情報システム学研究科情報システム設計学専攻（博士課程）単位取得後退学
専門分野	教育工学、e-Learning、SNS マーケティング
所属学会	教育システム情報学会、日本教育工学会、日本情報科教育学会、情報システム学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS マーケティング ・ インフルエンサーマーケティング ・ ICT 教育における学習行動分析 ・ オンライン授業における質問支援機能の開発
検索ワード	データサイエンス、SNS マーケティング、デジタル機器、ICT 活用法

研究概要

ビックデータを解析しインフルエンサーを突き止めよ！ 今やそれがビジネス成功の鍵

私たちが日常的に使うようになったSNS。ビジネスの現場においてもSNSを活用した新しいマーケティングが展開されるようになりました。日々拡張を続けるSNSは、社会、メディア、消費にどのような変化をもたらしていくのでしょうか。従来型の情報発信といえば、広告やCM、DMなど、企業側からの一方通行の情報発信が中心でした。SNSにおいては消費者が製品やサービスについての口コミを自ら発信しています。それに対して別の消費者が影響を受け、「いいね!」と共感しています。瞬く間に情報が拡散しているのです。このとき、周囲に影響力のあるインフルエンサーが存在します。私は、このインフルエンサーを突き止めるためのデータ解析の手法について研究しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 藤枝市小中学校校長会、教頭会、学校運営研究部研修会にて「一人一台端末におけるICTの活用法」について講演、「経営のDXに活かすデータサイエンス入門」講座の講師、公益財団法人静岡県産業振興財団販売戦略サポート委員会アドバイザー、B-nest 静岡市産学交流センター中小企業におけるSNSマーケティングの展開法の講師、藤枝市民大学、吉田町シニアカレッジにて「日々進化し続けるデジタル機器」について講師、静岡県中部高等学校副校長・教頭会、清水東高等学校、島田工業高等学校にて「教育のDXと働き方改革」について講演、藤枝市北高等学校、藤枝市東高等学校にて「SNSマーケティングとデータサイエンス」について講演 など



夏吉 裕貴 NATSUYOSI Hiroki
なつよし ひろき

職位	専任講師
取得学位	博士
最終学歴	横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科博士後期課程修了
専門分野	会計学
所属学会	日本会計研究学会、日本経済会計学会、日本社会関連会計学会
近年の研究テーマ	・非営利組織ガバナンス ・管理会計
検索ワード	非営利組織、ガバナンス、管理会計、公益法人

研究概要

より信頼される非営利組織へ

近年、SDGsが採択される等、社会問題の解決に向けた動きが活発化しています。この動きの中で重要な役割を果たすのが、利益を目的としない組織である、「非営利組織」です。

しかし、昨今、非営利組織において補助金の不正流用や高額な役員報酬といったスキャンダルが発生しています。個々のスキャンダルの影響は非営利センター全体へと波及し、資金提供の喪失を招く恐れがあります。このようなスキャンダルを防ぐためには、「ガバナンス」の導入が1つの手段となります。例えば、非営利組織の経営陣の中に外部の人材を選任し経営の監視を受けることで、スキャンダルを抑制できるでしょう。

私は、どのような非営利組織ガバナンスがスキャンダルの抑制に有効であるかを明らかにすることを目的として研究活動を行っています。本研究成果は、非営利組織の自主的なガバナンスの導入や規制を通じてスキャンダルの発生、ひいては非営利組織に対する信頼の低下を抑制することで、非営利組織を通じた社会問題の解決に貢献することが期待されます。

連携可能内容等

【連携可能内容】 公益法人や社会福祉法人、学校法人等の非営利組織に関する活動



野崎 英二 NOZAKI Eiji
のどき えいじ

職位	専任教授
取得学位	経営学士
最終学歴	神戸大学経営学部経営学科卒業
専門分野	教育課程と方法、教育技術、商業科教育法
所属学会	日本商業教育学会、日本教育経営学会
近年の研究テーマ	学級減や統廃合など商業関係高等学校を取り巻く現状は大変厳しい状況にあり、この現状を理解し課題を解決するための方策に取り組んでいます。
検索ワード	高等学校、商業教育、学校教育、教職課程

研究概要

学生が地域振興の為の具体案を考え、企業と伴に実践し、社会に参画する態度を育てる。

高等学校における商業教育を主に研究していますが、研究対象となる科目が現行では20科目あります。その中で、商業教育の基礎・基本を学習した後に履修する「商品開発と流通」や「課題研究」という科目があります。

「商品開発と流通」は商品の企画、開発、パッケージのデザイン、知的財産権など幅広く学び、多くの場合、地域の特産品などを利用して新たな商品を生み出していくことができます。実際に、本県をはじめ全国の商業関係高等学校では、地場産品を利用し企業とコラボした商品が多くあります。

この科目以外でも「課題研究」という授業を通して、地域振興をテーマに学習に取り組み、また「商品開発と流通」と「課題研究」の授業を有効に活用して、地域を活性化するために高校生の独自のアイデアが至る所で生かされています。

連携可能内容等

【SDGsの視点での連携可能内容】

- ・高等学校教育全般
- ・商業高等学校全般
- ・商業教育全般



法月 健 NORIZUKI Ken
のりづき けん

職位	専任教授
取得学位	教育学修士、科学修士
最終学歴	エジンバラ大学大学院（英国）修士課程応用言語学科修了
専門分野	応用言語学、言語テスト・評価論
所属学会	大学英語教育学会、日本言語テスト学会、外国語教育メディア学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・混合ラッシュモデル ・潜在クラス理論 ・潜在ランク理論の言語テスト規準設定への応用 ・タスクを重視した言語教育と評価
検索ワード	言語テスト、応用言語学

研究概要

英語能力評価の研究を通じて、 社会が必要とする評価体系の構築に寄与したい。

英語学習・教育に関係する応用言語学の研究領域の中で、特に英語能力の評価やテストの開発、分析法の研究などを行ってきました。テスト機関の委託研究（グループ）においては、受験者の心理的負担を軽減し、短い時間で実施できる習熟度クラス編成（placement）用語彙テストの開発やそのテスト及び解答自信度評価データの分析について考察し、タスクを重視した言語指導・評価についての研究を行いました。その他に、大学入試英語テストで何を測定すべきか（シンポジウム）、習熟度編成クラスにおける英語授業の公正な評価（講演）等に取り組んできました。このような研究を通じて、教育機関や企業、社会全般が必要とする英語（コミュニケーション）能力を育む、効果的かつ、公正な教育プログラム及び評価体制の構築に寄与することを目指していきたいと考えております。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・シンガポール大学学生への講演講師（日本の高等教育機関の国際化）
- ・英語運用能力評価協会の講師
- ・英語教育研究センター常任審議委員会記念講演会の講師
- ・英語教育研究センターの委託研究（言語テストの分析）
- ・英語弁論大会の審査員



牧野 好洋 MAKINO Yoshihiro
まきの よしひろ

職位	専任教授
取得学位	博士（商学）
最終学歴	慶應義塾大学大学院商学研究科商学専攻後期博士課程修了
専門分野	計量経済学、経済統計
所属学会	日本産業経済学会、環太平洋産業連関分析学会、日本統計学会、 日本応用経済学会
近年の研究テーマ	社会会計行列（SAM）および計算可能な一般均衡モデル（CGE モデル）による経済分析
検索ワード	GDP 統計、経済波及効果、アンケート調査、地域経済

研究概要

実践!経済分析と統計活用 － GDP 統計、経済波及効果、アンケート調査ほかー

私の研究活動は主に「経済モデルの構築」と「調査の設計」です。①複雑な現実経済を簡単な経済モデルに表すとともに、②調査を通して現実経済をデータ（統計）で捉え、③両者を組み合わせ、経済波及効果などに関する分析を試みます。

研究では「やってみる」「少しの工夫」「諸機関との連携」を重視しています。例えば、これまで、以下の研究を行いました。

「経済波及効果」。これは、財・サービスの生産やイベントの実施などが、各産業に及ぼす影響を示します。静岡県の場合、地域ごとに産業構造が大きく異なるため、影響は県内均一でなく、いずれかの地域に強く表れます。そこで、私は静岡県データ活用推進課と協力し、県への経済波及効果を地域別に変換する指標を開発しました。そこから、エアコンなど民生用電気機器の生産は、主に県中部地域に影響をもたらすことが分かりました。同指標は現在、県のwebサイト「統計センターしずおか」で公表、活用されています。

これからも、「実践」「工夫」「連携」を組み合わせ、社会に貢献したいと思います。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 内閣府経済社会総合研究所「地域間の移出入推計の課題に対応するための調査」有識者会議座長、内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算標準方式等の整備作業」研究会座長、総務省「産業分類改定研究会」構成員、静岡県「東京2020オリンピック・パラリンピック経済波及効果推計業務経済波及効果報告書」（報告書執筆）、静岡市「静岡市ものづくり産業の構造と予測－経済統計に基づく横断面・時系列分析－」（報告書執筆） など

【連携可能内容】 マクロ・ミクロ経済学の基礎知識の整理、GDP統計の見方・使い方の説明と活用、経済モデルを用いた経済波及効果の計測、様々な経済統計に基づく地域経済の分析、アンケート調査の設計と考察 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 家計における家事・介護・育児などの貨幣評価、生産活動などの経済波及効果と環境負荷の考察、SDGsなどに係るアンケート調査の設計及び集計 など

【その他】

- ・これまで、国・県・市、他大学、経済研究所、商工会議所などと連携しながら、経済統計の整備や統計を用いた経済分析、研究発表を行ってきました。
- ・2017年12月、神奈川県統計功績者として表彰されました。
- ・2021年8月より、「静岡県リカレント教育検討会議」委員として、今後の社会人教育を産官学連携にて検討しています。



宮田 弘一 MIYATA Hirokazu
みやた ひろかず

職位	専任教授
取得学位	博士（教育学）
最終学歴	広島大学大学院教育学研究科博士課程後期教育学習科学専攻（高等教育学分野）
専門分野	キャリア論、高等教育論、インターンシップ
所属学会	日本キャリア教育学会、IDE 大学協会、日本高等教育学会、大学教育学会、日本教育経営学会、日本インターンシップ学会
近年の研究テーマ	・キャリア教育 ・高等教育 ・就職支援 ・インターンシップ
検索ワード	キャリア教育、高等教育（大学、専門学校等）、就職支援、インターンシップ

研究概要

学内外の学びとキャリアとを架橋する 大学におけるキャリア教育の可能性

1999年に立命館大学が従来の「就職課」を「キャリアセンター」と衣替えしたことを契機として、大学の教育課程の中にも「キャリア」を掲げた科目が開講されるようになりました。さらに、2011年の大学設置基準改正で教育課程内におけるキャリア教育が義務化され、ほぼすべての大学で同教育科目が実施されています。このような大学内でキャリア教育が急速に広がった時期に、大学職員の立場で同教育に対して、素朴に疑問を感じたことが今の研究を始めたきっかけです。

大学のキャリア教育は、例えば、①ジョブ・キャリアに偏っている、②自己分析等の行き過ぎた心理主義に陥っている、③キャリア教育科目と他の科目との連携が学内で行われていない等、様々な課題が存在すると認識しています。一方で、キャリア教育の目的は、学内外での学びを社会に出ていくことを意識させることで再構成させ、“社会でたたかき生き抜く学生”を輩出することだと考えます。このような現実と目的とのギャップを埋めるために、大学におけるキャリア教育のあり方を模索しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 備後地区4大学と当該地域の企業等と共同でインターンシップに関するセミナーの実施、広島県下の企業等と連携してインターンシッププログラムの開発、企業等に対する新卒採用活動対策セミナーの実施

【連携可能内容】

- ・SDGs時代に向けた「三方よし(学生-本学-企業)」による新たなインターンシップのプログラム開発
- ・大学や専門学校を研究対象にしてきましたので、それらの知見・経験をもとに高校の先生方や高校生を対象にした進路ガイダンスの実施
- ・総合的な探究の時間(キャリア教育)に関する知見の提供
- ・企業等に対して“今どきの大学生や就職活動”に関する講演
- ・ゼミ生によるデザイン思考を用いた企業等の課題解決に対する提案(予定) など

【SDGsの視点での連携可能内容】 就労支援や労働者の権利に関する講演会の講師

【その他】 私の研究対象であるキャリア教育およびインターンシップは、高等教育機関に先んじて小・中等教育機関で実施されてきました。それらに対して豊かな実践知をお持ちの先生方とキャリア教育やインターンシップに関する情報共有できる場を設けることができると考えています。



入江 眞理 IRIE Mari
いりえ まり

職位	専任准教授
取得学位	博士（教育学）
最終学歴	明星大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程修了
専門分野	リトミック、幼児教育（表現・音楽）
所属学会	日本ダルクローズ音楽教育学会、日本音楽教育学会、日本乳幼児教育学会、日本音楽表現学会、音楽教育史学会、日本子ども学会
近年の研究テーマ	保育におけるリトミックの意義に関する研究
検索ワード	リトミック、音楽遊び、保育と音楽、保育における身体表現

研究概要

子どもとリトミック

子どもを対象とするリトミックの意義はどこにあるのか、音楽的能力の涵養にとどまらないリトミック教育の総合性について研究を進めています。

近年の研究で、①リトミックにおける音楽は、子どもたちの間に一体感を形成し、感情に働きかけて、自発的な動きを引き出す役割があること、②幼児期に必要な多様な運動としての内容を備えていること、を明らかにしました。リトミックは、友だちと一緒に音楽に合わせて遊ぶ中で、十分に全身を動かし、その心地よさを味わうことができるものであることが改めて確かめられたのです。このような多面性をもつリトミックについてさらに研究を深め、幼児教育における可能性を探求したいと考えています。



連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・“さんだいおんがくとどけ隊”：音楽遊びの実践（磐田市立総合病院、磐田市内こども園等）
- ・オンリーワン・ハイスクール事業：「保育・幼児教育を探求する」（静岡県立磐田北高等学校）
- ・高大連携事業による出張講義：「幼稚園実習について」（静岡県立静岡西高等学校）

【連携可能内容】

- ・保育に活かすリトミックの教育法
- ・保育における音楽のあり方
- ・保育者と音楽表現

【SDGsの視点での連携可能内容】 音楽遊び、リズム遊びの実践と研究、外部講師

【その他】 磐田文化振興会理事



川端 奈津子 KAWABATA Natsuko
かわばた なつこ

職位	専任准教授
取得学位	博士（社会福祉学）
最終学歴	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科博士後期課程ヒューマンデザイン専攻 修了
専門分野	障害福祉、社会福祉
所属学会	日本社会福祉学会、日本発達障害学会、日本自閉症スペクトラム学会、 日本職業リハビリテーション学会、日本保育学会、日本保育者養成教育学会
近年の研究テーマ	・発達障害 ・障害者雇用（就労支援） ・インクルーシブ保育 ・プログラム評価
検索ワード	発達障害、障害児保育、障害者雇用、子ども

研究概要

保育所等や企業で展開するインクルージョンの実現を目指す

インクルージョンの定義は、学問領域で多少異なります。社会学では社会的に孤立しやすい人々への機会均等を目指す社会的包摂を意味し、教育学では障害のある子どもなど、多様なニーズに対応する教育を示しています。一方、経営学では「マネジメント」の概念が加わり、職場における多様な人材の包摂に対応しながら組織のパフォーマンスにつなげる必要があります。このような違いはありますが、全ての人の「自分らしさ」が尊重され、互いに認め合いながら共に「育つ・学ぶ・働く」状態を目指している点は同じです。

近年は、①保育所等における発達障害のある子どもの保育実践、②企業における発達障害者の雇用（就労）について研究しています。いずれも、基本は個の属性にかかわらず「多様な他者を理解する」ことから始まります。全国には、効果的な実践により成果をあげている事例があります。それらの創意工夫を収集し、現場と協働しながら有効な支援プログラムモデルを作成することで、インクルーシブな保育、職場づくりに貢献したいと考えています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 群馬県保育士等キャリアアップ研修会講師「障害児保育」「保護者支援・子育て支援」、伊勢崎市私立保育園会研修会講師「保育現場における発達に課題のある子どもへの支援Ver.2」、群馬県保育協議会との共同研究「保育所に勤務する保育士の勤務継続意欲を支える要因」、保健師や心理職と協働した群馬県内保育所等へのコンサルテーション

【連携可能内容】

- ・保育所等における発達に課題のある子どもへの支援（保護者支援を含む）に係る現職研修講師（オンライン可）や共同研究、コンサルテーション
- ・企業等における発達障害者雇用に係る連携、共同研究

【SDGsの視点での連携可能内容】 「目標①:貧困をなくそう」×「目標④:質の高い教育をみんなに」を主旨とした出前講座「子どもの貧困をめぐる現状と課題」の講師

【その他】 磐田市国際交流協会理事



久保田 貴之 KUBOTA Takayuki
くほた たかゆき

職位	専任准教授
取得学位	博士（学術）
最終学歴	静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部情報科学専攻
専門分野	実験心理学、情報学
所属学会	日本心理学会、日本認知心理学会、日本社会心理学会、日本デジタルゲーム学会
近年の研究テーマ	・行動と結果の因果関係に関する人間の認知 ・不確実性下における主観的な判断
検索ワード	因果関係の認知、随伴性判断、不確実性

研究概要

因果関係に関する人間の認知特性の解明

随伴性判断とは、ある事象が別の事象を引き起こすというような因果関係に関しての主観的な判断です。主観的な判断ですので、客観的な事実としてそのような因果関係はなくてもかまいません。事実、私たちは実際には因果関係がないような事象の間にも何らかの関連性があるように感じてしまうことがあります。迷信やジンクスは、その例といえます。

私が興味を持っているのは、自ら実行した行動の頻度が随伴性判断に影響するという現象です。何らかの行動を多く行う（たとえば、病気の患者に薬を飲ませる）ほど、その行動が結果（病気が治る）をより引き起こしやすいと感じることがあり、この現象は「反応確率効果」と呼ばれています。私たちは様々なことを決めながら活動していますが、自ら決めるという行為そのものが、誤った判断を促すかもしれないのです。

この研究は、因果関係に関する人間の認知特性解明につながります。またこの知見をもとに、誤った因果関係を見いだしやすい状況の検出や、因果関係を正しく把握させる方法の開発にもつなげたいと考えています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・JA大井川研修会講師（2018年度）
- ・パソコン講座講師（2016年度～2019年度、2022年度／Word・Excel・PowerPoint）



熊王 康宏 KUMAOH Yasuhiro
くまおう やすひろ

職位	専任教授
取得学位	博士（工学）
最終学歴	金沢工業大学大学院工学研究科経営工学専攻博士前期課程修了
専門分野	経営工学、心理評価、マーケティング
所属学会	日本感性工学会、日本官能評価学会、日本味と匂学会、日本品質管理学会、日本経営工学会、アグリニクス研究会（農・工・商連携研究会）
近年の研究テーマ	感性評価による商品品質の研究
検索ワード	感性工学、感性評価、感性マーケティング、曲線描画法

研究概要

ものづくり感性論 －“なんとな〜く”をデザインして経営に役立てる－

食品・化粧品などをはじめ、自動車・スポーツ用品など、生活環境の中にあるデザイン化された商品は、日本の“ものづくり”における技術力向上により、その競争が平衡化しています。このような中、感性・官能といった人の心理を用いた評価法による商品開発が世界的にも注目されています。研究では、“ものづくり”の根幹を支える人の感性の重要性について検討しています。人の感性は、“なんとな〜く感じる”というように、曖昧ではあるものの、“もの”を評価した結果を解析し具体化することで、企業経営を支える一つの大きなツールとなっています。

現在は、感性評価における先駆的な研究として位置づけられている「曲線描画法」を用いて、人が感動する場面・ポイントを抽出し、商品開発に活かす取り組みを進めています。従来の感性評価実験に基づく解析だけではなく、実際の商品開発にフィードバックし、マーケティング活動に反映させて、学生と一緒に地域社会に貢献しています。

連携可能内容等

【連携可能内容】

○感性工学・官能評価による新商品開発（生理指標含む）・食品、化粧品のような日用品を取り扱う企業・団体様で、人の感性を用いて自社の商品をリニューアルしたり、新商品開発に取り組みたい。・脳波計、サーモグラフィなどを応用した客観的評価による測定と感性評価による商品開発。／○感性マーケティングによるブランディング・地方公共団体様で、地域のブランド化のために感性による商品開発で“まちづくり”に貢献したい。・同業他社における競合商品でヒット商品になっている理由を、感性・官能評価の観点から明らかにし、現状打破に取り組みたい。／○映像製作（ドローンによる空撮も含む）・地域のブランド、企業の印象を高めるために、見る人に感動を与えるような映像を作成したい。（日本感性工学会 研究奨励賞受賞の実績あり）／○食品の品質管理、高度衛生管理手法（H A C C P）・作業標準書、衛生管理マニュアルなどを作成したい、衛生管理のレベルを向上させたい。／○講演依頼（過去の実績より）・感性・官能評価の方法、食品の高度衛生管理手法（H A C C P）、企業のブランディングなど

【SDGsの視点での連携可能内容】 SDGs達成のための従業員に対するアンケート調査、商品開発など、ご相談に応じて対応します。

【その他】 遠州の小京都森町まちづくり推進会議委員、森町地方創生・総合戦略有識者委員会、磐田市創業支援ネットワーク会議委員、森町総合計画審議会委員など歴任



酒井 範子 SAKAI Noriko
さ かい の り こ

職位	特任講師
取得学位	家政学士
最終学歴	日本女子大学家政学部家政経済学科卒業
専門分野	保育士養成、児童福祉
所属学会	日本保育学会
近年の研究テーマ	・保育原理 ・保育実習の理論と実践
検索ワード	保育士養成課程、保育実習

研究概要

高い専門性に裏付けられた感性豊かな保育士の育成を通じて、 地域貢献を目指す

「子育ての現状」を探り、地域社会が求めている子育て支援に関する課題や保育の現場が直面している課題について模索し、求められている子育て支援を可能とする保育者の専門性の育成を目指しています。

保育現場では、乳児保育、病児保育などに加えて社会問題となっている児童虐待の防止、子どもの貧困への対策、地域の子ども支援の拠点などの社会的背景から、保育士には高い専門性と保育の質の展開が求められています。そのような中、保育士不足の解消は困難を極めており、保育士養成を本学の地域貢献の使命と考え進めてまいります。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・静岡県放課後児童支援員認定資格研修講師
- ・磐田市のキャラクター「しっぺい」を用いた幼児向け教材の開発（共同研究）
- ・静岡県子育て支援員研修講師
- ・静岡県放課後児童支援員認定資格研修講師

【その他】 静岡県公立大学法人評価委員会委員、静岡県立磐田北高等学校学校評議員、聖隷福祉法人聖隷福祉事業団聖隷びゅあセンター磐田第三者委員、静岡県磐田市立南部中学校運営協議会会長など歴任



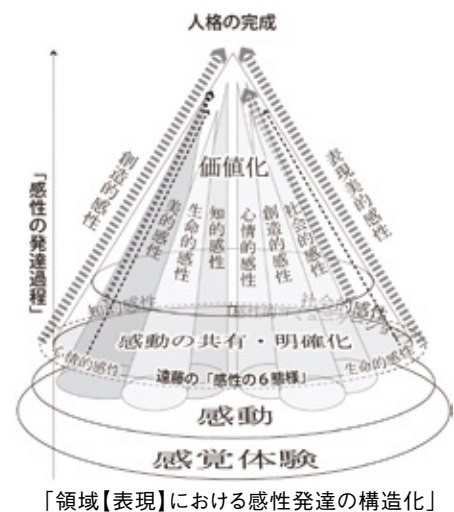
佐藤 寛子 SATO Hiroko
さとう ひろこ

職位 専任准教授
 取得学位 修士（教育学）、修士（医科学）
 最終学歴 大分大学大学院教育学研究科教科教育専攻（修士課程）美術教育専修修了、
 大分医科大学大学院医学系研究科医科学専攻（修士課程）感染予防医学講座
 修了
 専門分野 造形表現、美術教育、感性教育
 所属学会 日本感性教育学会、大学美術教育学会、美術科教育学会、日本保育学会、
 児童教育学会、中四国心理学会
 近年の研究テーマ ・造形活動における「豊かな感性」のみとりに関する事例研究
 ・造形行為における幼児の母指中手指節関節過伸展の実態調査
 検索ワード 保育、造形表現、感性教育、図画工作

研究概要

造形遊びで豊かな感性を育もう

平成29年の保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂では「幼児期までに育ってほしい姿」として「豊かな感性と表現」が示されました。これは5領域のねらい及び内容に基づく活動全体によって育まれます。一方、保育者の援助・指導を評価し、計画の改善を図ることも求められました。保育者の援助・指導の評価は保育者のみとりに始まります。領域「表現」のねらいである「豊かな感性」のみとりについて、幼稚園教育要領解説にみる「感性の発達過程」と「感性の6態様（生命的感性、美的感性、心情的感性、知的感性、創造的感性、社会的感性）」（遠藤友麗）の2つの側面に着目し、事例を通して検証しました。感性の発達過程は6態様が包含関係にあり、「感性の共有・明確化」を中継として多方向に働くこと、さらに感性の価値化は6態様が相互に関わり、分化と統合を繰り返しながら質的变化をすること、その過程には他者の感性の働きかけに対して、実感を伴う体験や自分の感性での捉え直しが必要であることがわかりました。



連携可能内容等

【過去の連携実績】

ゼミ活動：投票済証のデザイン（磐田市選挙管理委員会）、「センキョ割」普及活動（センキョ割@磐田事務局）、感性評価に基づいた紙袋のデザイン（森町産業課）、先哲史料「田原淳」の挿絵制作（大分県教育委員会）との地域連携
 教育活動：ICTを活用した遠隔地のこども園との連携事業、保育士・幼児を対象とした造形表現指導（外部講師）、感性教育ワークショップの開催

【SDGsの視点での連携可能内容】 女性の能力強化促進のための画像処理実務講座（目標5/5.b）、美術鑑賞から学ぶアート思考-多様で包摂的な社会の実現に向けて-（SDGsの考え方）

【その他】

- ・日本感性教育学会理事
- ・大分県美術館構想検討委員



高城 佳那 TAKAGI Kana
たかぎ かな

職位	専任准教授
取得学位	修士（社会福祉学）
最終学歴	武蔵野大学大学院人間社会研究科実践福祉学専攻修士課程修了
専門分野	心理カウンセリング、対人魅力、自殺予防、地域福祉、援助希求
所属学会	日本自殺予防学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、日本教育心理学会、中国四国心理学会、児童教育学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・援助希求能力からみる中高年男性の自殺予防対策 ・大学生のコミュニケーション能力育成のための臨床心理学的カリキュラムの開発 ・セクシュアル・マイノリティの心理社会的困難について
検索ワード	心理、自殺、コミュニケーション、セクシュアルマイノリティ

研究概要

地域との連携で中高年男性の自殺予防を目指す

自殺既遂者の行動を調査すると、女性は死亡前1カ月間に死に関する発言を80%しているのに対して、男性は死に関する発言をする者が47%と少なく、死亡1年前に援助を希求しない者も女性の20%に比べて48%と有意差があります。男性自殺者の多くは、有職者で家族があるにも関わらず援助希求せず自殺既遂にいたっているのです。このことから男性が、援助を希求することができるようになれば自殺者数が減少するのではないかと考え研究をはじめました。しかし、中高年男性個人の援助希求能力を向上させることは非常に難しくエビデンスもほとんどないため、現在は周囲の援助能力、特に地域からのアプローチによる自殺予防対策について研究をおこなっています。

地域別にみる援助希求の阻害要因は、過疎地域では地域住民の強いつながりのため口に出せないという地域性に加え、社会資源が少ないことであり、都市部では社会資源は豊富であるが地域住民や家族との関係が希薄で、社会資源と個人が繋がらないことでした。そこで、地域との連携を通して自殺予防対策を行うためのモデルの構築を行い、実施されている自殺予防対策の検討をしています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 藤枝市選挙管理委員会「県議選投票済証デザイン」策定、内閣官房孤独・孤立対策「第8回 孤独・孤立に関するフォーラム」、ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ学生等地域貢献推進事業」藤枝市指定課題・伊豆市指定課題、吉田町シニアカレッジの講師、第2回藤枝産官学連携懇話会の講師、磐田市消防本部「セクシュアルマイノリティ研修」の講師、磐田市総合病院教養講座の講師、環太平洋大学女性アスリート支援プロジェクト講演会の講師 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 直感的に理解し体験できるゲーム形式の学習教材「2030 SDGs」カードの活用、ジェンダー平等の実現に向けたセクシュアルマイノリティへの理解についての研修などの講師 など



谷口 昭彦 TANIGUCHI Akihiko
たにぐち あきひこ

職位	専任准教授
取得学位	博士（経済学）
最終学歴	専修大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
専門分野	応用一般均衡分析（CGE）、実証分析、計量及び数量分析
所属学会	比較経済体制学会、経済統計学会、日本ソーシャルデータサイエンス学会、環太平洋産業連関分析学会
近年の研究テーマ	・県民経済計算推計および国民経済計算のサテライト勘定推計 ・CGEによる政策シミュレーション（環境、観光、産業政策、社会保障、福祉など）
検索ワード	データ分析、地域経済、観光経済、環境経済

研究概要

エビデンスのある政策で持続可能な成長を

経済学は人々の暮らしをより良くするための研究をしています。経済理論や様々な発見は実際の生活が向上されて初めて意味を持ちます。そうした中で、応用一般均衡分析はそうした理論的な発見を実際に適用した場合にどうなるかを確認できるツールです。応用一般均衡は人々の暮らしに貢献することができるツールです。

取り組んでいる政策の一例をあげると防災政策、環境政策、観光政策、物流政策、貿易政策、都市政策、交通政策、教育政策、スポーツ政策、地方財政政策、地方活性化政策、人口対策です。

分析の手順としては、誰もが利用可能なデータセットの作成を行い、そのデータを基礎にして政策を実施した場合の効果を消費者の立場、生産者の立場、行政の立場のそれぞれから吟味して、より良い政策を立案していきます。たとえば、地方財政の歳入、歳出にかかわる施策を行い、その効果を具体的な数値で示し、わかりやすい指標で示すことができます。シミュレーション分析の成果をふまえて、行動を起こすためのエビデンスとして利用し、確かな成長を目指すことが可能です。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 川根高校を支援するプロジェクト活動

【連携可能内容】 データを用いたエビデンスのある政策について、経済評価、需要予測、政策シミュレーションによる経済効果、特に成長戦略や所得再分配政策（年金、医療、生活保護など）がある。統計学的知識を用いたデータサイエンティスト研修、県民経済計算などを用いた経済政策立案（環境、観光、産業政策、社会保障政策）など。

【SDGsの視点での連携可能内容】 環境経済学を専門分野としていることもあって、環境経済学の用語の説明と共に過去から現在までの環境に関する考え方、政策を紹介できる。これらを踏まえて今後の環境政策を提示する。さらに、消費者への環境教育が遅れている分野であるので、お手伝いできる。



丹羽 由一 NIWA Yoshikazu
に わ よしかず

職位	客員教授
取得学位	経済学士
最終学歴	東京大学経済学部経済学科
専門分野	企業金融、国際金融、財務管理、地域経済、地域経営、行動経済学
所属学会	日本経済学会、国際ビジネス研究学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナショック後の世界経済 ・行動経済学に基づくビジネス・ストラテジー ・人口減少下の地域経営戦略 ・コーポレート・ファイナンスの視点に立った地方自治体の財務分析
検索ワード	企業金融、財務管理、行動経済、地域経済

研究概要

マネーフローに着目した経済・経営

お金はウソをつきません。仮に名前、年齢、性別など一切不明な人物でも、もしその人の一年間のお金の流れをすべて把握できたら、日常生活から職業、趣味、交友関係、性格までほとんど言い当てられます。

マネーフローに着目する理由も実はここににあります。オーケストラの指揮者が楽譜を見るだけで頭の中に交響曲を鳴らすことができるように、経済指標や財務データを読みこなせるなら、その国の経済や企業が発しているつぶやきやためいき、歓声や悲鳴をはっきり聞くことができるでしょう。

お金の流れは目に見えません。しかし、その巨大なパワーで世界を動かし、また個人や会社を、時には国家さえも一瞬で壊滅させます。反対にその流れを捉えることができれば、経済や企業経営を意のままに操ることも可能です。潮目を読むのと同様、マネーフローも慣れてくれば金利や為替、株価などの指標からある程度推測できます。どうすれば「流れ」に乗れるのか、個々のビジネスを即して一緒に考えてみましょう。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

部外講師「カイジに学ぶ行動経済学」「人口減少社会のサバイバル戦略」「マネーとビジネスのリスクマネジメント」出前授業「カイジに学ぶマネーの極意」「地域課題解決ビジネスプラン作戦」など

【その他】

通商産業省民活アドバイザー、同省第三セクター委員会委員、運輸省運輸政策審議会小委員会委員、東京都中小企業委員会委員、日本経済同友会地方活性化委員会委員



日隈 美代子 HIGUMA Miyoko
ひぐま みよこ

職位	専任講師
取得学位	博士（情報学）
最終学歴	静岡大学大学院自然科学系教育部情報科学専攻（博士課程）修了
専門分野	認知心理学、教育学、保育学、小学校教育、食育
所属学会	日本心理学会、日本認知心理学会、日本保育学会、日本育療学会、 日本教育心理学会、日本教育福祉学会、日本乳幼児教育学会
近年の研究テーマ	・保育士養成課程における食育教材開発 ・教員、保育士のキャリア形成と多様性の関係性 ・VR 技術を認知心理学実験にどう生かすか
検索ワード	記憶の心理学、子どもの食育、幼保小接続、教員・保育者のキャリア形成

研究概要

食行動と記憶と保育・教育現場を通して、人間の情報処理を考える

人間の情報処理について、3つの軸から研究を行っています。

1つ目は、食行動や食育の視点です。食行動は生きるうえで不可欠です。よりよく生きるために、子どものときからの食育は、健康で豊かな生活を送るうえで非常に重要であると考えられます。

2つ目は、記憶の正確さと確信度評定の関連性について、判断基準とそのリソースが何であるのか、実験を重ねて研究しています。

3つ目は、教育現場での経験からの視点です。現代社会においては、ダイバーシティ推進（多様な人材を活かす戦略推進）が求められており、それは子どもをとりまく環境も同様です。教員や保育者も、多様性を受け止め、柔軟かつ臨機応変に対応する力が求められています。教育や保育におけるICTの活用やキャリアの多様性が、ダイバーシティ推進にどのような影響を与えるのか検討を重ねています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・令和4年度静岡県子育て支援員研修講師（科目：「保護者の職業倫理と配慮事項」）
- ・令和4年度静岡県放課後児童支援員認定資格研修講師（科目：「保護者との連携・協力と相談支援」「学校・地域との連携」）

【SDGsの視点での連携可能内容】

- ・幼保小接続期における個別の教育支援計画の活用支援と保護者支援
- ・教員・保育者の多様性とキャリア形成について
- ・保育所・幼稚園・認定こども園・小学校における多様性の在り方について



藤田 直樹 FUJITA Naoki
ふじた なおき

職位	専任講師
取得学位	博士（商学）
最終学歴	関西学院大学大学院商学研究科博士課程後期課程修了
専門分野	財務会計、国際会計
所属学会	日本会計研究学会、国際会計研究学会、日本経済会計学会
近年の研究テーマ	・退職給付会計：歴史、理論、実証 ・本体情報と注記情報
検索ワード	簿記、会計、経営分析（財務諸表分析）、ビジネス

研究概要

退職給付会計情報はどのように財務諸表に反映すればよいか？

退職給付は、企業の経済活動に欠かせない労働力への対価です。企業は、従業員が働いたことを条件に将来支払う必要のある金額を負債として財務諸表と呼ばれる書類に計上します。しかしながら、従業員の退職給付を受けとる権利（受給権）は国や各退職給付制度により異なるため、企業が将来支払う必要のある金額として財務諸表に計上された分が従業員に将来支払われない可能性があります。

また、米国、ヨーロッパ主導の国際会計基準、日本の会計基準を比較すると、退職給付に関して異なる会計処理が行われております。近年、会計基準の国際化が進み、日本では日本基準以外に米国基準や国際会計基準を導入する企業が増えてきました。

これらの事情を踏まえて、私は退職給付会計基準が高度に発展してきた米国、ヨーロッパ主導の国際会計基準、日本において各国の時代背景が退職給付の会計処理に与えた影響を歴史的に考察し、未だ解決されていない論点について理論的検討と実証的検証を行い、望ましい退職給付の会計処理を研究しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・簿記に関する高校、大学を対象にした外部講師（高校は、高校生を対象に大学の入門講義を担当しておりました。）
- ・大学傘下の会計研究会顧問、討論会の講評

【連携可能内容】

- ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得講座、勉強会
- ・数字に関する質の高い教育の提案
- ・企業の経済活動と会計情報の仕組みに関する講演会

【その他】 私は、会計処理能力を試す日商簿記検定試験1級と財務諸表読解・分析能力を試すビジネス会計検定試験1級を取得した経験に加え、これまでの研究経験により高校生、大学生、企業社員、一般市民等幅広い方々へ資格取得講座や企業関連の世の中のニュースの読み方に関する勉強会を実施し、参加者のより豊かな知識修得・論理的思考力の養成に貢献したいと考えています。



堀内 慎一郎 HORIUCHI Shinichiro
ほりうち しんいちろう

職位	専任講師
取得学位	商学修士
最終学歴	慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程 単位取得満期退学
専門分野	人的資源管理論、組織論
所属学会	日本労務学会、組織学会、人材育成学会、国際ビジネス研究学会、日本政治学会
近年の研究テーマ	・日本企業の国際展開に伴う人材育成システムの国際移転 ・管理職昇進など女性活躍
検索ワード	人事、人材開発、グローバル化、女性活躍

研究概要

人的資源管理における 「変えることができないこと」と「変えるべきこと」を考える。

少子高齢化が進む中で、女性や外国籍の方を含む多様な人材に国内・海外拠点を問わずに活躍してもらうには、これまでの人事や人材育成のあり様にどのような改革が必要なのか、「変えることができないこと」と「変えるべきこと」は何なのかといった問題について、「人事や人材育成の仕組みは、それぞれが単独で機能しているのではなく、相互補完性を持つシステムである」という立場から研究しています。

連携可能内容等

【連携可能内容】

- ・人的資源管理（人事制度、人材育成、採用など）の諸制度の評価
- ・女性活躍推進、ダイバーシティの観点からの人的資源管理の評価
- ・社史、組合史の編纂



宮地 由紀子 MIYACHI Yukiko
みやち ゆきこ

職位	専任准教授
取得学位	博士（学術）
最終学歴	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科博士後期課程修了
専門分野	社会福祉、障害福祉、地域福祉
所属学会	日本子ども学会、こども環境学会、日本保育学会、日本家政学会、日本子育て学会
近年の研究テーマ	・子どもの居場所の研究 ・福祉職のメンタルケア
検索ワード	共生社会、ソーシャルワーク、子どもの居場所

研究概要

多様な生き方を認め合う共生社会の形成は可能か？

「共生社会」という言葉が多くの中で使われています。本来「共生」とは生物学の学術用語であるとされており、自然との共生を意味していました。現在では人と人との関係やその社会実現への志向として提起されています。性別や年齢、人種、障がいなど多様な他者を理解し認め合う社会の形成は可能でしょうか？

社会的なマイノリティといわれる人々を、「ふつう」とは異質な理解困難な「他者」とであるとらえ、不信感を持つことや関与を好まないことが見られます。その一方で、震災や土砂災害などの被災者への思いや支援活動は、見知らぬ他者への関心とつながりを生みます。

社会福祉、特にソーシャルワークは、困難な状況におかれている他者の状況や求めに応えようとすることによって、他者に向き合い応答責任を果たすことになります。

このようなアプローチは、社会的マイノリティの就業機会拡大として広がったダイバーシティにつながるものといえます。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 NPO法人の職員研修講師（磐田市）、磐田市社会福祉協議会主催講座講師、静岡県放課後児童支援員認定資格研修講師、静岡県子育て支援員研修講師、ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業「大学共同事業」講師

【連携可能内容】 地域における子どもや親子の遊びを中心とした居場所づくりについて研究しています。

【SDGsの視点での連携可能内容】 保育や子どもの遊びに関する調査、研究、外部講師

【その他】 社会福祉法人（保育所・認定こども園事業運営）理事
NPO法人（児童発達支援事業運営）理事長



山内 秋人 YAMAUCHI Akito
やまうち あきと

職位	特任教授
取得学位	経済学士
最終学歴	滋賀大学経済学部
専門分野	地方自治、地域政策
所属学会	
近年の研究テーマ	・人口減少・少子高齢化社会における、地方都市の地域政策及び地域社会（住民）の取組み
検索ワード	地域政策、フィールドワーク

研究概要

人口減少・少子高齢化社会における、 地方都市の地域政策及び地域社会（住民）の取組み

少子高齢化が進み、人口減少が免れない状況となっている現在、その影響を大きく受けている地方都市では、地域のあるべき姿、目指すべき姿をどう捉え、どのような地域政策を展開しようとしているのか。人口を奪い合う都市間競争ではなく、地域住民の幸福度を尺度とした施策が求められている。また、地域（住民）は、自分たちの住む地域をどのような姿を目指し、取組みを行っているのか。地域へのフィールドワークを中心に地域住民とともに考え、行動する中で、地域の課題解決や進むべき方向性を考える。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 市職員として自治会・地域づくり活動、商工観光施策における商工業者との関わり、及び子育て支援施策に取り組んできました。

【連携可能内容】

地域活性化、地域づくりの連携、フィールドワーク

地方自治体での行政経験を生かし、自治体との協働、支援についてのアドバイス、連携、ともに行動を行います。



山田 一之 YAMADA Kazuyuki
やまだ かずゆき

職位	専任教授
取得学位	博士（人間科学）
最終学歴	学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得満期退学
専門分野	実験心理学、行動心理学、行動神経科学
所属学会	日本心理学会、日本動物心理学会、日本分子生物学会、日本神経科学学会
近年の研究テーマ	・行動の遺伝学的基盤 ・ストレス性行動異常の発現機序 ・環境要因の行動発達への影響など
検索ワード	遺伝子改変動物、動物モデル

研究概要

30年後を1年で知る－タイムマシンとしての動物モデル

動物実験の是非が問われるとき、しばしばヒトではできない実験をするために必要不可欠である、という説明がなされます。多くの場合、これは「倫理的にヒトを被験者として実験ができない」ということを示していますが、もう一つの理由として「ヒトの一生が約80年と非常に長いために実験ができない」という意味も含まれています。ヒトよりもずっと寿命の短い動物をモデルとすることによって、例えば、発達初期の環境要因が成長後の個体に与える影響について、厳密な実験的統制を行いながら短時間で検討することが可能となります。

私は主にマウスを用いた行動神経科学的研究を通して、胎児期や乳児期の環境や化学物質暴露が成長後の精神（行動）に及ぼす影響について研究を重ね、ガイドライン策定等の政策提言に貢献してきました。

社会環境ばかりでなく自然環境も激変する現在、いわばタイムマシンとしての動物モデルは今後ますます重要な役割を担ってゆくものと考えています。

連携可能内容等

【連携可能内容】 鳥・害獣被害対策や農薬等の発達毒性評価などについて各種期間・団体等との連携が可能です。但し、本学では実験環境がないため、実験的評価が必要な場合は実験環境を提供していただく必要があります。

【SDGsの視点での連携可能内容】 環境保全のための閾値下環境汚染物質（環境ホルモン等）による発達行動毒性の評価について取り組んできました。鳥・害獣被害対策や農薬等の発達毒性評価などについて各種機関・団体等との連携が可能です。

【その他】

- ・厚生労働省研究班：「化学物質の情動・認知行動に対する影響の毒性学的評価法に関する研究-特に遅発性影響の評価系のメカニズム解明による確立-」（北嶋班）（平成20年4月～22年3月）
- ・厚生労働省研究班：「神経系発生-発達期の化学物質暴露による遅発中枢影響解析に基づく統合的な情動認知行動毒性評価系確立に資する研究」（種村班）（平成23年4月～25年3月）
- ・磐田市立総合病院中期計画協議会委員（令和4年度～）
- ・磐田市情報公開・個人情報保護審査会および磐田市行政不服審査会会長（令和5年度）



山田 悟史 YAMADA Satoshi
やまだ さとし

職位	専任教授
取得学位	修士（体育学）
最終学歴	中京大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）単位取得後退学
専門分野	子どもの健康、スポーツバイオメカニクス、水泳、コーチング
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本バイオメカニクス学会、東海体育学会、日本水泳・水中運動学会、日本コーチング学会、日本発育発達学会、日本子ども学会、日本保育学会
近年の研究テーマ	・安全で楽しく、効率的かつ効果的な運動遊びを行うための、内容、コーチング法、環境構成 ・ICTを活用した遊び環境のサポート（指導案サクサクマシンを開発中）
検索ワード	運動遊び、子ども、スポーツ保育、コーチング

研究概要

本来の楽しむスポーツで、子どもの心身の健康を作る

前職は選手専門の競泳コーチをでした。その中で、スポーツはもっと楽しむべきで、楽しくなければ伸びないと痛感したことが、幼児スポーツに関わるきっかけでした。

また、スポーツは本来自分のためにするものであるはずなのに、「誰かのために」やっていたり、「ガマンするために」やらされていたりする子どもが多いことに違和感がありました。

近年、子どもの身体活動量が減っていると指摘されていますが、その一方でスポーツの低年齢化も進んでいます。スポーツへの上記の様な状況が、低年齢での運動嫌いなどを生んでいるのではとと思っています。

現在では、幼児期の運動あそびが、子どもの健全な心身の発達に欠かせないことが明らかになっていますが、必要なのは運動「遊び」であり、運動ではありません。ガマンするものではなく、楽しむべきものです。幼児期には真の意味でのスポーツを行うべきだと言えます。スポーツが「子どもにとって自分を解放できる場」となるように、本来のスポーツを開放したいと考え、楽しく効果的な運動遊びの指導法の研究および、運動遊び・スポーツの環境をサポートするICT活用の研究などを行っています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 子どもの運動あそび定着のための官民連携推進事業（袋井市）、株式会社ティップネスと子どもの運動あそびに関する共同研究、磐田市スポーツ協会と子ども（小学生低学年）の運動あそびの実施 など

【連携可能内容】 藤枝市のれんげじスマイルホール（子どもの体育館）の立ち上げに携わり、大型用具の館主や職員研修・効果測定などを行いました。その成果は自治体相互フェアなどで取り上げていただきました。さまざまな自治体の保育士・幼稚園教諭向け講習を行っており、2020年には磐田市の幼保職員研修として「水遊び研修会」を行いました。

【SDGsの視点での連携可能内容】 約10年間、本学でのキッズスクール（子どもの運動あそび）の運営に携わってきました。スポーツ保育サークル「すきゃもん」のサークル活動やゼミ活動として、保育園等で一緒に遊んだり、運動遊びをしたりしています。子どもの心身の健康に関する取り組みでしたら、気軽にご相談ください。

【その他】 磐田市子ども子育て会議座長、愛知県西尾市小学校水泳指導調整会議座長など歴任

【教員WEBサイト】 <https://www.sports-solution.com/>



劉 志宏 RYU Shiko
りゅう しこう

職位	特任教授
取得学位	博士（学術）
最終学歴	東京大学大学院総合文化研究科（博士後期課程）単位取得後退学
専門分野	国際関係史、経営史
所属学会	国際関係論研究会、経営史学会、アジア政経学会、中国経済経営学会
近年の研究テーマ	中国の鉄鋼メーカー上海宝钢のコンピューター管理システムの形成。中国や日本だけでなく、アメリカ、韓国なども視野に入れて研究する。
検索ワード	企業比較、技術・経営移転、戦後の日中関係

研究概要

戦後の日中関係の歴史を見れば、 今現在日中間で起きている様々な出来事が理解できる

私の専門は国際関係経営史であります。国際関係経営史とは学際的研究であり、具体的には日中両国間の企業関係及び企業比較の研究を行っております。研究テーマは技術移転と経営移転で、今まで鉄鋼業における技術移転などについての研究を進めてまいりました。

周知のように、1980年代以降中国は目覚ましい経済成長を持続し、世界工場や成長センターなどと呼ばれるようになっております。2001年WTO加盟以降、日本の自動車、家電、鉄鋼メーカーをはじめとする多くの企業は相次いで中国進出を果し、日中両国の企業関係は今後ますます緊密になることが予想されます。特に、本学が所在している東海地区では、自動車や楽器など、中国と密接な関係がある企業が非常に多く、経営や技術、文化などの面において、色々な問題が起きています。これらの問題解決につながる研究は私の使命であると思っております。

連携可能内容等

【その他】

- ・平成14年7月 浜松市商工業振興計画推進協議会委員（平成16年3月まで）
- ・平成17年5月 磐田国際交流協会理事（平成18年3月まで）
- ・平成17年5月 磐田市ふるさと学習サポート委員会委員（平成18年3月まで）
- ・平成27年4月 磐田国際交流協会理事（令和5年3月まで）



青木 優 AOKI Masaru
あおき まさる

職位	専任教授
取得学位	博士（工学）
最終学歴	明治大学大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程単位取得後退学
専門分野	数理工学、物性基礎論
所属学会	日本スポーツ産業学会、日本応用数理学会、形の科学会、日本物理学会
近年の研究テーマ	・計算幾何学によるサッカーの試合分析 ・オープンデータを活用したPBL型情報教育
検索ワード	データサイエンス、数理工学、物性基礎論、SDGs

研究概要

データサイエンス

近年のIoTや映像機器等のハードウェアの発展及びデータサイエンスの理論とそのソフトウェアの発展に伴って、様々なデータを大量かつ容易に収集・分析することが可能となり、多くの知見が得られる時代が到来しています。

私は2021年4月に開設した本学スポーツ科学部の配属となり、現在はスポーツデータサイエンス研究の一環として、自らが開発したデータ分析手法とソフトウェアを用いてサッカーの試合のデータ分析を行っています。今後は、サッカー以外のスポーツデータ分析にもチャレンジしたいと思っています。また、常に最先端の知識や技術を身に付け、教育の現場や企業団体、地域の方々に還元できるよう努めていきたいと思っています。

更に、オープンデータの活用についても興味があり、本学学生や磐田市の職員の方々と共に磐田市ごみ分別アプリ「しっぺいのゴミチェッカー」を開発し、現在は維持管理を行っています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 磐田市ごみ分別アプリの開発、維持管理（磐田市からの受託研究）

実学教育×SDGsホームページをご参照ください。 <https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/practical-science/application/>

【連携可能内容】 ボロノイ解析とドロネーネットワーク分析を用いて、サッカーの試合のトラッキングデータを分析する為の手法とソフトウェアを開発し、研究を行っています。ソフトウェアに手を加えれば、サッカー以外のチームスポーツの分析にも活用可能です。

【SDGsの視点での連携可能内容】 磐田市からの受託研究で、官学で磐田市ごみ分別アプリの開発と維持管理を行っていることから、ごみの減量やリサイクル促進など、学生達と共に環境問題などの社会課題解決に向けた取り組みが可能です。



伊藤 麻希 ITO Maki
いとう まき

職位	専任講師
取得学位	修士（映像身体学）
最終学歴	立教大学大学院現代心理学研究科映像身体学専攻
専門分野	健康スポーツ、身体表現、運動指導
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本女子体育連盟
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導者の指導言語 ・ダンス・フィットネス指導 ・運動継続の要因 ・体育科教育（体づくり運動、ダンス）
検索ワード	ダンス、フィットネス、運動指導、健康スポーツ

研究概要

運動の「楽しさ」を伝える指導方法

幼少からモダンバレエを始め、現在に至るまでダンサーとしてパフォーマンスをさせていただく多くの機会に恵まれました。ダンスは身体ひとつで、ありのままの存在と動きで人々を魅了します。ダンサーとしての表現活動を通して、身体を見て、身体で考え、身体を動かし、そうしていくうちに、身体で起こることや、身体を動かすことの楽しさをより多くの方と共有したいと考えようになりました。そして、ダンスのパフォーマンスだけでなく、フィットネス指導者としても長く仕事をさせていただきました。多くの指導者との交流を通し、運動指導の研鑽を積んでまいりました。

運動することは、身体を動かすだけでなく、心も動かしてくれます。そして、運動は私たちの生活を健やかで彩り鮮やかにしてくれます。今後は、ダンサーやフィットネス指導者として培った経験を学生に伝えながら、多様な運動経験を活かして運動やスポーツの普及を志す学生たちと運動指導の方法や可能性について研究を行っていきたいと考えております。また、大学や学生とともに、地域の方々に運動の「楽しさ」を伝え、健康づくりのお手伝いをしていきたいと考えております。

連携可能内容等

【過去の活動実績】 ヨガレッスン提供、ダンスレッスン提供、ストレッチ・筋トレレッスン提供、ダンス・イベントの企画運営

【連携可能内容】 健康増進のための運動クラス提供（ダンス、ヨガ、ピラティス、ストレッチ、筋トレ）、ダンス公演の開催、ダンスプログラムの提供、地域イベントでのダンスレクチャー

【SDGsの視点での連携可能内容】 健康寿命の延伸や生活習慣予防のための運動プログラム実施、メンタルヘルスを改善する運動プログラムの提供、女性の社会進出を促進させるリカレント教育の提案



江間 諒一 EMA Ryoichi
え ま りょういち

職位	専任准教授
取得学位	博士（スポーツ科学）
最終学歴	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻（博士後期課程）修了
専門分野	運動生理学、バイオメカニクス、神経筋生理学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本バイオメカニクス学会、 日本トレーニング科学会、ヨーロッパスポーツ科学会、日本体力医学会
近年の研究テーマ	・筋肉痛を抑制するための有効な対策の開発 ・速く走るための動きを作るトレーニング法の開発 ・磐田のまちを活用した身体活動促進の取り組み
検索ワード	骨格筋、筋肉痛、健康、筋活動

研究概要

骨格筋に着目した視点から テーラーメイド型トレーニングの実現を目指す

筋肉は身体運動を生み出す原動力です。筋が力を生み、骨を動かすから、私たちは動くことができるし、アスリートは美しいパフォーマンスを私たちにみせてくれます。そのため、筋を対象とした研究は、突き詰めていけばヒトが動く仕組みの解明につながります。

運動や環境に対して、筋は様々な反応や適応を示します。例えば、運動をして疲れると力が出にくくなる、運動した翌日に筋肉痛に悩まされる、といった一時的な反応があります。この疲れや筋肉痛がどのような機序で生じるのか、疲れや痛みを防ぐ有効な手立てがないかどうか、研究を進めています。また、長期的な適応として、トレーニングを継続すると筋が太くなる、寝たきりや加齢によって萎縮してしまうといった量の変化や、筋の質の変化も生じることが分かってきています。超音波診断装置や筋電図という手法を用いてそれらを可視化し、パフォーマンスの向上や低下がなぜ生じるのかを解明することを通じて、個人の目的やニーズにあったテーラーメイド型トレーニングの実現を目指しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 産官学民連携による磐田市健幸プロジェクト「ジュビロ飯」、磐田市×静岡産業大学共催企画「新入生・在学生在がスポーツ・健康に関する地域課題解決アイデアを磐田市へ提案!」、産業振興フェアinいわたへブース出展、公益財団法人健康・体力づくり事業財団貯筋運動コース講師、Edith Cowan大学（オーストラリア）・芝浦工業大学・早稲田大学研究者との共同研究（プレスリリース https://www.ssu.ac.jp/news/press-release2021_31/） など

【連携可能内容】 アスリートや地域住民・従業員などの体力評価・セミナーや講習会の実施、身体運動パフォーマンスの向上、筋疲労や筋肉痛の抑制を目的とした製品（ウェアやシューズなど）やサプリメントの開発・効果の検証 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 スポーツ健康科学を活用したSDGs達成への取り組みに関する研究、講師
<https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/sports/sports-science/>

【その他】 researchmapに活動を記載しています。（<https://researchmap.jp/rema>）連携については、大学・研究機関で行う意義が重要だと考えます。専門的な内容を加え、社会的・学術的に意義のある連携ができることを期待します。



小澤 治夫 OZAWA Haruo
おどわ はるお

職位	特別教授・スポーツ教育研究センター長
取得学位	医学博士
最終学歴	東京教育大学(現 筑波大学)大学院体育学研究科修士課程健康教育学専攻 修了
専門分野	保健体育科教育学、発育発達学、運動生理学、トレーニング科学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本体力医学会、日本神経眼科学会、 日本バイオメカニクス学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、 日本体育科教育学会、日本スポーツ教育学会、日本健康行動科学学会、 日本トレーニング指導学会、日本フットボール学会
近年の研究テーマ	・ジュニア期のスポーツライフマネジメント ・血液測定による学校における健康教育の取り組み ・GPSを用いたスポーツ中の運動分析
検索ワード	運動、生活習慣、スポーツ、ヘモグロビン

研究概要

生活習慣のコントロールは生産性向上の鍵

近年、子どもの体力と学力の低下が指摘されており、連関して将来の科学技術力の低下にとどまらず経済力の低下まで懸念されています。その背景の一つは生活習慣の悪化にあり、近年の日本人は遅寝・遅起きで睡眠時間も短時間傾向にあります。約半数の高校生の就床時刻は24時を越え起床時刻は午前7時前で、子どもにとどまらず働き盛りの壮年では睡眠時間が6時間に満たない人が相当数いることも報告されています。

労働時間当たりのGDPは、日本は世界でも下位にあり、かつワークライフバランスが保たれているとは言えません。働き方改革が叫ばれる昨今、子どもから大人まで、「運動・食事・睡眠・勉強(仕事)・遊び」を中心とした基本的な生活習慣を大事にすることが求められています。健康状態を表す血中ヘモグロビン値は個人差だけでなく集団の差をも示しています。生活が安定している学校は貧血が少なく学力が高いことも私たちの研究は明らかにしてきました。健康経営を目指す企業も、学力・体力の向上を目指す学校も、社員や生徒・学生個人の内在于る能力を高め十二分に発揮するためには生活を適切にコントロールすることが不可欠です。

連携可能内容等

【過去の活動実績】 東海大学附属高校生生活習慣改善プロジェクト、山形県・小澤研究室連携健康教育推進事業、磐田市公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会教育講演会の講師、神奈川県川崎市立橋高校進路講演会の講師 など

【連携可能内容】

- ・子どもの体力向上や生活習慣の改善、魅力的な保健体育授業の実践等に関する各種講演
- ・血液(ヘモグロビン)・骨密度測定を活用した健康教育

【その他】 日本体育学会理事、日本スポーツ教育学会理事、国立教育政策研究所「教員養成等の改善に関する研究コアカリキュラム班」委員、公益社団法人日本フィットネス協会理事、一般社団法人日本ウォーキング協会理事、一般社団法人日本Gボール協会理事、一般社団法人「22世紀親子から子育て塾」塾長など歴任

【作成した教科書、教材】 最新高等保健体育(平成25年4月.大修館書店)、ベースボール型授業の展開(平成27年5月.日本プロ野球機構)、学校保健ハンドブック第7次改訂(平成31年4月.ぎょうせい)、授業が盛り上がる体育の教材・教具ベスト90(令和4年7月.大修館書店) など



笠井 義明 KASAI Yoshiaki
か さい よしあき

職位	専任准教授
取得学位	教育学士
最終学歴	早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業
専門分野	学校体育
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本部活動学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県が目指す教育実習」の現状と課題 ・大学生等による部活動支援ボランティアの充実と改善 ・中高保健科教育において論理的思考力を高める課題型学習について ・大学教育における健康持続のためのレジリエンスプログラム開発
検索ワード	学校体育、教育実習、運動部活動、保健体育教員

研究概要

学校教育目標の実現に貢献する保健体育教員の育成

各学校には「学校教育目標」があり、育てたい生徒の姿が示されています。各学校における全ての関係者と協力して学校教育目標の実現に貢献できる保健体育科の教員を育成します。

例えば、甲子園大会や高校サッカー選手権大会など、国民の関心がとても高い高校生のスポーツイベントは、高校生の運動部の発表の場です。また、「全中(全国中学校体育大会)」は中学生憧れの部活動の発表イベントです。それらのイベントにおける生徒の活躍を目標の一つとしつつも、運動部活動や教科「保健体育」を通じてどのように学校教育目標を実現していくかを考え、実践できる保健体育教員を育成します。

連携可能内容等

【過去の活動実績】 大学生等による部活動支援ボランティア事業(静岡県)の充実、改善

【連携可能内容】 運動部活動における外部指導者としての大学生派遣

【SDGsの視点での連携可能内容】 少子化、指導者の高齢化、教員の働き方改革により、各学校では部活動の統廃合が進み、従前のような運動部の活動の維持が困難な状況にあります。持続可能で、スポーツを楽しみたい生徒を誰一人残さない運動部を運営できる教員を育成します。

【その他】 静岡県大学生等による部活動支援ボランティア連絡協議会委員、静岡県地域運動部活動研究委員会委員、静岡県レクリエーション協会理事、ユースサポーター(静岡県教育委員会)など歴任



木村 駿介 KIMURA Shunsuke
きむら しゅんすけ

職位	専任講師
取得学位	博士（スポーツウェルネス学）
最終学歴	立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科
専門分野	スポーツ心理学、健康心理学、障害者心理学
所属学会	日本心理学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本社会心理学会、 日本健康心理学会、パーソナリティ心理学会、日本家政学会、 学校メンタルヘルス学会
近年の研究テーマ	・指導者の認知的対処方略と指導スタイルがチームに及ぼす影響 ・アスリートのメンタルヘルス ・防衛的悲観主義 ・共食（きょうじょく）とQOLの関連
検索ワード	パフォーマンス、メンタルヘルス、防衛的悲観主義、メンタルトレーニング

研究概要

「こころ」を理解することでパフォーマンスを向上させる

スポーツに限らず様々な場面においてパフォーマンスと「こころ」が関連することが広く認知されるようになってきました。そして近年では、いわゆるポジティブシンキングだけではなく、悲観的な認知や劣等感、挫折などの困難な経験も個人の成長には重要な役割を果たすことが分かってきています。つまり、成功しやすい性格があるのではなく、自分自身の「こころ」を理解し、受け入れて、問題や課題を解決するための考え方を身に着けることがパフォーマンスの向上へとつながっていくと考えられます。そこで現在は、個人に目を向けた楽観や悲観といった物事の受け取り方とパフォーマンスを関連付ける様々な要因の検討や、指導者の指導スタイルや取り組み方が指導者自身の成長やチーム力の向上にどのように影響するのかに関心をもって研究に取り組んでいます。

連携可能内容等

【連携可能内容】

- ・スポーツチームなど組織に対する心理的アセスメント
- ・コミュニケーションやメンタルヘルスに関する講習会等
- ・メンタルトレーニングの実施

【SDGsの視点での連携可能内容】

- ・メンタルヘルス講習会の講師



清宮 孝文 KIYOMIYA Takafumi
きよみや たかふみ

職位	専任講師
取得学位	博士（体育科学）
最終学歴	日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻（博士課程）修了
専門分野	スポーツ社会学、体育社会学、スポーツマネジメント
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツマネジメント学会、日本運動・スポーツ科学学会
近年の研究テーマ	・スポーツボランティアに対するイメージと参加意欲の関連性 ・スポーツボランティアに対する他律的イメージの形成過程
検索ワード	スポーツ社会学、体育社会学、スポーツマネジメント、スポーツボランティア

研究概要

アンケート調査から得られたデータを用いて、目に見えない問題を「視覚化」する

私は、「ある事象に対して人々の中で通説にはなっているけど、目には見えていない」という抽象的なものを「視覚化」できることに魅力を感じ、スポーツ社会学の分野で量的調査を用いて研究を行ってきました。

現在、着目しているテーマは「スポーツボランティア」です。様々な場面でも同様のことが言えますが、受動的な者よりも能動的なの方が、能力を発揮することができると思います。しかし、スポーツボランティア活動では部活動や会社などで、強制的に参加した者が一定数存在することが分かっています。そこで、私はスポーツボランティアを「やらされるもの」とイメージしている者に着目し、量的調査を用いて、活動に参加する意欲との関連性を検証しました。その結果、「スポーツボランティアに対して他律的なイメージを持つ者は活動に参加する意欲も低下する」ことが明らかになり、一つの通説を「視覚化」することができました。

今後は、量的調査で明らかになったことを活かし、スポーツボランティア活動へのマネジメント方法を提案していきたいと考えています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 静岡ブルーレヴズのラグビースクールと協賛で交流戦を運営（2021年12月）、東京2020大会に参加したボランティアへの調査（日本体育大学と共同研究）、アメリカ・韓国・日本の3カ国に対するドーピング意識調査（日本体育大学と共同研究）

【連携可能内容】 教育機関や企業などでスポーツボランティア活動に参加希望の方を対象として、事前研修として講演することが可能です。また、スポーツボランティア活動を運営する方に対しても参加者との軋轢を防ぐ目的で講演をさせて頂きたいと思います。

【SDGsの視点での連携可能内容】 地域で開催されるスポーツイベントやスポーツボランティア活動には、地域住民の交流機会があります。そして、住民同士の交流は今後の「まちづくり」に重要であると考えます。私は地域のスポーツチームなどと連携し、スポーツ実施率・観戦率の向上、スポーツボランティアへの参加者増加を推進していきたいと思っています。

- ・持続可能な社会に向けたボランティアに関する調査実施
- ・まちづくりのために必要なスポーツボランティアに関する調査実施



後藤 隆浩 GOTO Takahiro
ごとう たかひろ

職位	専任教授
取得学位	文学修士
最終学歴	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科各国文学専攻単位取得満期退学
専門分野	イギリス文学
所属学会	大塚英文学会、筑波イギリス文学会、筑波大学比較・理論文学会、 大学英語教育学会、日本英文学会、日本比較文学会、国際文化表現学会、 日本英学史学会
近年の研究テーマ	ジョウゼフ・コンラッド文芸における語りの構造と精神形態
検索ワード	異文化、言語、近代、語り

研究概要

異文化理解、比較文化

近代イギリス小説史において重要な位置にある作家、ジョウゼフ・コンラッドについて研究しております。ポーランドに生まれたコンラッドは、イギリスに帰化し、外国語である英語を使って小説を書きました。また、多くの作品の舞台として東南アジア等、西洋以外の場所が設定されております。このような背景からコンラッドの作品には、異文化接触、言語と共同体といった問題が、根源的テーマとして書き込まれております。

国際化、情報化が進行する現代社会におきましては、異文化理解、異文化コミュニケーションの問題に対応する必要性が、今後ますます高まっていくことと思われまます。また、複雑化していく現代社会の構造を認識するためには、近代社会からの歴史的変化という文脈的理解が必要となると思われまます。コンラッドの作品から、近代社会の構造、異文化接触における普遍的な思考の形、発想法等を読み取ることができると思われまます。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 静岡産業大学総合教育講座「TOEICで学ぶ中級英語」の講師を担当

【連携可能内容】 ジョウゼフ・コンラッド作品を通じた異文化理解、異文化コミュニケーションの促進



佐藤 知条 SATO Chihiro
さとう ちひろ

職位	専任准教授
取得学位	修士（教育学）
最終学歴	東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻学校教育開発学コース修士課程修了
専門分野	教育学、教育史、教育方法、メディア史
所属学会	日本教育学会、日本教育方法学会、日本教育メディア学会、日本比較文化学会
近年の研究テーマ	・日本の近代学校教育におけるメディア利用の研究 ・メディアにおける教育言説の展開に関する研究
検索ワード	教育学、教育史、教育方法、映像メディア

研究概要

歴史から現在と将来の教育に資する知見を得る

近現代の日本の学校教育の歴史を、メディアという視点から研究しています。

①戦前日本における視聴覚教材の収集と分析

戦前の学校教育では映画やスライドといった視聴覚教材が一定の規模で利用されていました。それらのフィルムやスライドの多くは紛失、散逸してしまいましたが、今もまだ残されているものについて収集、修復、デジタル化して内容を分析しています。映像史料は当時の学校教育を知るための貴重なものです。学校や倉庫などに眠っていることも少なくありませんので、見かけた場合はぜひご連絡をいただければと思います。

②マスメディアによる教育の取り上げ方に関する研究

20世紀の日本では新聞とテレビがいちじるしく発達しました。こうしたマスメディアは、どのような教育の事象に注目し、いかに伝えてきたのでしょうか。そしてそれは、当該の教育事象に対する人々のイメージや態度の形成にどのような影響を与えたのでしょうか。テレビや新聞の影響力が強まる1960年代から80年代にかけて、網羅的に検討を進めています。

連携可能内容等

【連携可能内容】 学校教育学(教育実践、授業デザイン等)を専門にしています。よりよい授業づくり・学校づくりに向けて、小・中・高校の先生方と協力しながら学ばせていただければありがたいです。よろしくお願ひします。



徐 広孝 JO Hiroataka
じょ ひろたか

職位	専任准教授
取得学位	博士（体育科学）
最終学歴	筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻（博士後期課程）
専門分野	保健体育科教育学、体育測定評価学、スポーツデータサイエンス
所属学会	日本発育発達学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本体育科教育学会、 日本体育測定評価学会、日本統計学会、日本保健科教育学会、 日本フットボール学会
近年の研究テーマ	・保健、体育のより良い授業づくり ・サッカーのゲームパフォーマンスアナリティクス
検索ワード	保健授業、体育授業、スポーツアナリティクス、運動能力の測定と評価

研究概要

ICTで、保健体育や競技スポーツを変えていく

学校教育における保健体育の授業と、勝つことが求められる競技スポーツ。今、両者に共通して著しく発展していることがあります。それは、ICTやデータアナリティクスの活用です。

<ICTを使って、体育と保健はもっと面白くなる!>

GIGAスクール構想によって、児童生徒に「一人一台」の時代が到来しました。体育の授業では、これまでも動作を「撮って、見る」という活用がなされていましたが、ディスプレイ越しに見る自分（達）の動きからは、どうしても質的な情報しか得られません。そのため、運動が苦手な子にとっては、「何が改善点なのか」を考えることが難しいのです。そこで私の研究室では、ICTを活用して「動きを測る」ことを教材にした授業づくりを行っています。例えばバレーボールではスパイク決定率、サッカーではポゼッション率といったデータがありますよね。このようなゲームパフォーマンスデータを体育の授業で測定すれば、自分たちのチームの得意・不得意が数値化され、客観的・量的な思考材料をもとに、課題を考えることができますようになります。このようなアプローチは、STEAM教育に繋がる要素が含まれており、次世代型の体育授業の教材と言えます。一方、保健の授業はどうでしょうか。保健×ICTはイメージがわかりませんが、例えば自分の生活習慣と健康状態の関連を統計的に分析したり、Google my mapを使って交通安全マップを作成したりする教材があります。

<スポーツ選手の技能は絶対評価できるのか?>

競技スポーツでは、選手の能力を指導者（監督やコーチ）が評価していますが、もし、どのような指導者であっても共通して使用できる尺度、すなわち絶対評価を可能とする達成度評価基準があれば、もっと適切に能力評価ができるようになります。「スポーツ技能を絶対評価できるのか」と思われるかもしれませんが、ゲームパフォーマンスデータに項目反応理論という分析手法を適用することによって、これが可能になるのです。私の研究室では、サッカーの攻撃技能における達成度評価基準を開発中です。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 磐周小学校体育連盟研究講座「体育指導力アップ研修会」の講師、磐田市立岩田小学校体育授業のプロデュース など

【連携可能内容】 主に教育機関（学校や教育委員会）との連携になります。以下の内容において連携可能です。小学校、中学校、高等学校を対象とした体育授業・保健授業づくりや、体力テストの実施。具体的には、「ICTを活用した授業づくり、教材開発」、「楽しんで全力を出し切る体力テストイベント」などです。その他、出張授業や授業アシスタント（学生）の依頼なども可能です。

【SDGs×スポーツURL】 <https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/sports/health-physical/>

【その他】 中・高等学校保健体育教員経験あり、「保健体育×ICT×STEAM」の先進的実践研究を実施中、サッカーにおける機械学習と項目反応理論を活用した技能評価法を開発中



寒川 恒夫 SOGAWA Tsuneo
そうがわ つねお

職位 特任教授
 取得学位 学術博士
 最終学歴 筑波大学大学院体育科学研究科博士課程修了
 専門分野 スポーツ人類学、スポーツ史
 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ人類学会、アジアスポーツ人類学会
 近年の研究テーマ ・スポーツの文化研究
 ・文化資源としての民族スポーツ研究
 検索ワード 民族スポーツ、文化、スポーツ人類学、伝統

研究概要

スポーツは文化である

アジア（とりわけ日本、中国、韓国、台湾、タイ、スリランカ、インドなど）を中心にして世界で行われる民族スポーツをとりあげ、その文化資源（とりわけ観光資源）としての利用可能性について、民族スポーツの文化的内容はどのようなものであるかのフィールドワーク情報をもとに研究しています。



連携可能内容等

【連携可能内容】 世界で行われる民族スポーツの文化資源（とりわけ観光資源）としての利用可能性

【SDGsの視点での連携可能内容】 民族スポーツ・伝統スポーツの文化資源活用による地域おこし



高橋 和子 TAKAHASHI Kazuko
たかはし かずこ

職位	専任教授
取得学位	体育学修士
最終学歴	東京教育大学大学院体育学研究科修士課程修了
専門分野	舞踊教育学、体育科教育学、臨床教育学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、舞踊学会、体育科教育学会、 日本人間性心理学会、人体科学会
近年の研究テーマ	・健康持続の「からだ気づき」のレジリエンスプログラムの開発 ・教員・看護職のコミュニケーションスキル育成 ・スポーツにおける変革的リーダーシップ ・コロナ禍における遠隔ダンス授業
検索ワード	健康維持、ダンス、コミュニケーション、リーダーシップ

研究概要

ダンスを仲間と共に踊ることで、 心身ともにリフレッシュでき、自己肯定感が高まる

私がダンスを始めたのは大学に入ってからです。エリザベス女王の前で踊ったこともあります。それから50年舞台に立ってきました。おかげで元気です。

ノンバーバル・コミュニケーション(非言語的対話)であるダンスを通して、世界のどこに行っても人々と繋がることができます。この魅力に満ちたダンスは日本の中学校では必修になりました。私は文部科学省学習指導要領解説の作成に関わりしました。型にはまることなく即興表現を通して仲間と関わることで、心身がリフレッシュでき自己肯定感が高まります。多くの人に益々求められる創造性や自己表現力やコミュニケーション力が身に付きます。ダンスというと振付を踊ると思われがちですが、即興表現や創作活動は自主的・対話的で深い学びに支えられ、ひいてはレジリエンス(生きる力)に繋がります。ここでの指導者に求められるのは、安全な環境や双方向のやり取りの中で個性を引き出すことであり、世界的潮流になっている変革的リーダーシップであることが分かってきました。このことは、学校教育やスポーツの指導、会社などでのリーダーシップの在り方でも同様だと思います。

世界一踊る国と称されるアフリカのセネガルでは、踊りの競い合いはあるものの、部族間の戦争はないそうです。2024年パリ五輪の新競技「ブレイクダンス」が初採用になりました。四国の阿波踊りの歌い出しの「踊る阿呆に見る阿呆。同じ阿呆なら踊らにゃ損々」のようになれば、世界から戦争は撲滅できると願っています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 健康生きがいつくり講演会講師(しずおか健康長寿財団)、佐賀県療育支援センター講師、「女性アスリートデュアルキャリア」シンポジウムパネラー、磐田市とのスポーツ資源を活かしたまちづくり など

【連携可能内容】 学校体育における良い授業を実現する研修会(ダンス・体づくり運動)、乳幼児から高齢者までの健康運動(マインドフルネス)指導、産官学民の連携プロジェクト(例:磐田市発信のジュビロ飯)、教員・看護・介護職の人間関係論 など

【SDGsの視点での連携可能内容】 ジェンダー平等の実現に向けた講演会の講師、スポーツを通じた健康教室の講師
<https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/sports/buyou/>

【その他】 文部科学省学習指導要領解説作成協力者(保健体育)、スポーツ庁スポーツ審議会委員(公社)日本女子体育連盟顧問、(公財)横浜市スポーツ協会評議員、JOC女性スポーツ専門部会員、静岡県スポーツ推進審議会委員など歴任

【教員紹介WEBサイト】 <http://kazuko-ynu.jp>



館 俊樹
たち としき

TACHI Toshiki

職位	専任教授
取得学位	修士（人間科学）
最終学歴	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得後退学
専門分野	運動学、トレーニング科学
所属学会	日本発育発達学会、日本体育・スポーツ・健康学会、東海体育学会、日本ゴルフ学会、日本教育医学会、日本介護予防・健康づくり学会
近年の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・動作の学習が歩行能力に与える影響 ・動的バランス能力が切り返し機能に与える影響 ・各種競技による肩関節機能の変遷 ・遅初性筋痛の評価
検索ワード	トレーニング、健康づくり

研究概要

趣味・嗜好を活かした健康づくり

厚生労働省の策定した健康日本 21では、生活習慣病を予防するため、18-64歳までに対しては3メッツ以上の運動を毎日60分、65歳以上に対しては強度を問わず毎日40分の身体活動を推奨しています。

しかし、運動習慣のない人や職に就いている人にはこの目標を達成することは困難です。特に運動を苦手としている人にとって「健康になれる」という目的だけでは継続的な運動をおこなうことは難しいです。そこで、本研究では参加者の「楽しいと感じること」や「楽だと感じること」をエクササイズと組み合わせることで生活習慣病予防に必要な運動量の確保や運動を行いやすい環境作りを目指します。

例えば、坂道が多い、海が近い、ショッピングセンター、駅までの距離等を加味した地域特性に合ったエクササイズを提案することで運動量を増やしていくことが可能です。さらに職場の環境においても、膝痛・腰痛・肩こり等に不定愁訴を減らすエクササイズを提案することで運動をしやすい状態をつくることを可能となります。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・健康リーダー養成事業講師
- ・静岡県スポーツイノベーション推進事業受託
- ・しずおか健康長寿財団「いきいき動画」作成受託

【連携可能内容】 楽しいと感じること、楽だと感じることとエクササイズを組み合わせた健康づくり

【SDGsの視点での連携可能内容】 活動量計を用いた、地域特性を活かした日常生活活動計測イベント

<https://www.ssu.ac.jp/guide/sdgs/sports/training/>

【その他】

- ・日本介護予防・健康づくり学会理事
- ・静岡県スポーツ協会医科学委員



中井 真吾 NAKAI Shingo
なかい しんご

職位	専任准教授
取得学位	修士（人間科学）
最終学歴	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科（博士後期課程）満期退学
専門分野	スポーツ医学、体力科学、理学療法学
所属学会	日本体力医学会、日本運動疫学会、日本理学療法士学会、 日本体育・スポーツ・健康学会、日本アスレティックトレーニング学会
近年の研究テーマ	・スポーツ外傷・障害に対するリスクマネジメント ・運動介入による身体的な動作パターンへの影響 ・筋膜動態変化による身体への影響
検索ワード	スポーツ医科学、スポーツのけが予防、ロコモティブシンドローム

研究概要

スクリーニングによってスポーツ外傷・障害を予防する

スポーツを行うことは、『楽器を演奏する』『作品を作る』など、人の豊かな生活に欠かせないツールの一つであると言えます。昨今は、競技・ファンスポーツだけでなく、健康にスポーツが寄与することが証明され、老若男女を問わず、多くの人たちが実施しております。

しかし、ときに生活活動以上の激しい運動強度を求められるスポーツ活動では、ケガ（外傷・障害）が起こりうる可能性が高くなります。真剣に楽しく行っているスポーツ活動で、誰もがケガをしたくないというのは、共通の考えであると思います。従来より、筋力や柔軟性の評価によって、ケガをしやすい身体かどうかを評価する検討がなされてきました。さらに近年では、ケガを予防するキーポイントとして、動作の質や環境要因へ目が向けられています。

そこで、私の研究では、身体や環境のスクリーニングを行うことによるケガの発生予防について、検証しています。

すべてのスポーツ活動を行う人が、ケガをしないで、楽しく真剣にスポーツ活動ができるように研究を続けています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

- ・令和4年度磐田市官学連携事業「LINEを使用したロコモの実態調査」
- ・令和元年度静岡県ヘルスケアビジネスモデル実証事業「ロコモティブシンドロームの予防」
- ・NPO法人藤枝市体育協会主催「競技力向上研修会」講師
- ・「平成31年度第1回日本健康運動指導士会 静岡県支部研修会」講師

【連携可能内容】

- ・身体や環境のスクリーニング、エクササイズ指導による外傷・障害・労働災害（腰痛）の発生予防
- ・ケガなく楽しく真剣にスポーツ活動ができる取り組み

【SDGsの視点での連携可能内容】 すべての人が健康でいきいきと生活するために、腰痛、肩こり等などの改善・予防法に関する講師、実態調査、測定



中西 健一郎 NAKANISHI Kenichiro
なかにし けんいちろう

職位	専任教授
取得学位	修士（体育学）
最終学歴	筑波大学大学院体育研究科コーチ学専攻修了
専門分野	コーチング、スポーツコンディショニング、サッカー、トレーニング科学、保健体育科教育学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、日本フットボール学会、日本発育発達学会、日本保健科教育学会
近年の研究テーマ	サッカー競技におけるGPSデータの実践的活用方法の開発
検索ワード	サッカー、GPS、コンディショニング

研究概要

最新テクノロジーがサッカー選手のコンディショニングを進化させる

サッカー・コンディショニングの世界的研究者であり、トップレベルのコンディショニングコーチ（男子デンマーク代表チーム等）でもある Jens Bangsbo博士は「サッカーは科学ではない。しかしながら科学はサッカーを進歩させる。」と述べています。科学的根拠に基づいたスポーツコンディショニングを実践するためには、体力テストに代表される測定評価がベースとなります。これまでの数多くの選手に実施したデータを活用すれば、アマチュア選手でも自らの体力的な課題を確認できます。一方で、現在のトップレベルのサッカー選手が実践しているコンディショニングにおいては、最新のGPS測定器を活用して実際のプレー（総走行距離やスプリント数等）をデータ化し、分析することでフィットネス向上や障害予防に役立てています。また、一部のチームでは、赤外線を内蔵した測定機器による非観血的な血液検査を実践し、スポーツ貧血の予防など体調管理に利用しています。

連携可能内容等

【連携可能内容】

- ・GPS測定器を活用したフィットネス向上や障害予防
- ・赤外線を内蔵した測定機器によるスポーツ貧血の予防

【その他】

- ・磐田市スポーツ推進審議会委員
- ・静岡県都市公園外部評価委員
- ・磐田市立学校部活動運営協議会会長
- ・U19サッカー日本女子代表チームフィジカルコーチ



松永 由弥子 MATSUNAGA Yumiko
まつなが ゆみこ

職位	専任教授
取得学位	教育学修士
最終学歴	筑波大学大学院博士課程教育学研究科教育基礎学専攻退学
専門分野	教育学、生涯学習学
所属学会	日本生涯教育学会、日本教育社会学会、日本教育学会、日本子ども社会学会
近年の研究テーマ	・地域学校協働本部事業のあり方 ・地域の偉人の学習のあり方 ・教育計画の評価のあり方
検索ワード	生涯学習、地域社会、自己肯定感、学校教育

研究概要

新しい時代の教育のあり方

現在の日本の学校を中心とした教育制度は、明治時代に整備されたものです。明治維新から150年以上経った日本社会は、その後大きな変化を遂げ今日に至り、今後も国際化・情報化が進展する中で、さらに激しく変化していくことでしょう。そのような社会の中で我々はどう生きるべきか、また社会を担う人材をどのように育成すべきか、という観点から、新しい時代の教育のあり方を研究しています。

具体的には、「人は学び続ける生き物である」という生涯学習の考え方に立ち、①学校教育中心ではなく、学校は勿論、人々が生活する家庭、職場、地域社会、それら全体で、人々の学習を支援する仕組みづくり、②各人の学習行動を支える知的好奇心を高めるものの方・考え方、③青少年の自己肯定感を高め、もてる能力を十分発揮できるようにするための教育内容としての「地域の偉人の学習」の有用性、を検討しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】（静岡県）社会教育基礎研修講師、（藤枝市民大学）生涯学習コーディネーター資格取得講座講師、静岡県社会教育委員長、藤枝市の諸委員会の委員（社会教育委員、男女共同参画会議、子ども子育て会議等）、掛川市文化政策審議会委員 など

【連携可能内容】 既に、行政、教育機関、地域と連携し、文化行政、学習支援や子育て支援の仕組みづくりに携わっています（静岡県教育振興基本計画評価委員会委員、静岡県社会教育委員会、静岡県美術館協議会委員、掛川市文化政策審議会委員等）。このことに関連して、各自治体の教育大綱や教育振興基本計画、文化政策計画等へのコメント、地域学校協働活動の取り組みに関する組織づくりや運営へのアドバイス、コーディネーター育成のための指導等を行うことが可能です。

【SDGsの視点での連携可能内容】 教育、環境にかかわるSDGs目標の1、4、5、7、11、13にかかわる講演・講義は可能です。

【その他】 藤枝市行政サービス評価委員会委員



宮崎 彰吾 MIYAZAKI Shogo
みやざき しょうご

職位	専任准教授
取得学位	博士（体育科学）
最終学歴	筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻（博士後期課程）修了
専門分野	スポーツバイオメカニクス、測定評価、体操競技・器械運動コーチング
所属学会	日本バイオメカニクス学会、日本体操競技・器械運動学会、バイオメカニズム学会、日本コーチング学会、日本体育・スポーツ・健康学会、International Society of Biomechanics in Sports、日本体育測定評価学会
近年の研究テーマ	・体操競技の世界トップレベルの技術分析 ・ICTを活用した器械運動の授業の学習効果の検討
検索ワード	スポーツパフォーマンス、スポーツバイオメカニクス、動作分析、スポーツコーチング

研究概要

身体の動きやその機序を定量的・客観的に測定し評価する

スポーツバイオメカニクスは、人の動作や生体信号を測定し、定量的・客観的に評価する学問分野です。これにより、身体がどのような力を発揮しているか？身体のどこに大きな負荷が加わっているか？など、スポーツの場面であれば、効率的な技術や障害の起こりにくい動きなど、指導現場で有用な知識として還元することができます。

私はこれまで、体操競技や器械運動を中心としたスポーツの動作解析に取り組んで来ました。指導や練習の現場では、選手や指導者の主観的で言葉や文章で表すことが難しい暗黙知が多く、それを、客観的で言語的な形式知（科学的知識）とすることで、スポーツ科学をスポーツ現場に還元できます。つまり、上手い人の動きのコツのようなものを多くの人に伝えられる可能性があるということです。

また、スポーツバイオメカニクスはスポーツ用具やトレーニング方法の開発や評価と相性が良く、これらの知見は現代的なスポーツ用具の開発に大きく貢献しています。今後、人と物の関係性を解明し、それを社会に貢献したいと考えています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 株式会社富士通体操競技自動採点プロジェクト実験協力

【連携可能内容】

- ・効率的な技術や傷害の起こりにくい動きに関する指導
- ・スポーツ用具やトレーニング方法の開発や評価

【その他】

- ・公益財団法人 日本オリンピック委員会強化スタッフ
- ・公益財団法人 日本体操協会アンチドーピング委員会研究部員
- ・静岡県体操協会男子体操競技強化委員会強化部員



和所 泰史 WASHO Yasushi
わしよ やすし

職位	専任講師
取得学位	博士（スポーツ科学）
最終学歴	中京大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）修了
専門分野	体育・スポーツ史、体育・スポーツ哲学
所属学会	日本体育・スポーツ・健康学会、東海体育学会、体育史学会、スポーツ史学会、 日本体育・スポーツ哲学会、JOA（日本オリンピック・アカデミー）、POW 研究会、 なにわのスポーツ研究会
近年の研究テーマ	・1948 年第 14 回オリンピック・ロンドン大会の日本招待問題 ・戦後日本の国際スポーツ界復帰問題 ・フェアプレイの概念論 ・マリンスポーツの水難事故防止
検索ワード	オリンピック、国際復帰、フェアプレイ、水難事故

研究概要

戦後日本のオリンピック・ムーブメント復帰問題

第二次世界大戦が終結し、国際オリンピック委員会は1936年以来中断していたオリンピック大会を1948年にロンドンで開催することを決定した。しかし、この大会に日本とドイツは招待されなかった。一方で、日本とドイツと同じく第二次世界大戦の敗戦国となったイタリア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニア、フィンランドは招待されたのである。この疑問を解決するため、日本国内や海外の史料を検討した結果、日本軍による戦時中の残忍行為が原因であったことが明らかとなった。以上の背景から、日本の戦後オリンピック・ムーブメント復帰は非常に困難な状況であった。やがて日本は約15年を経て1964年の第18回東京オリンピック大会を開催した。本研究は、その歴史的経緯のスタートとなる。

また、日本（東京）は2021年に第32回オリンピック・パラリンピック大会を開催した。現在、日本ではオリンピック・ムーブメントの教育的意義が重要となっている。歴史とは過去の過ちを繰り返さないための教科書であり、今後のより良いオリンピック・ムーブメントの推進に貢献するものである。

連携可能内容等

【過去の連携実績】 ジュビロ磐田と連携し、学生企画としてリーグ戦会場外イベント開催、磐田市「スポーツのまち未来構想」プロジェクト委員、掛川市スポーツ推進計画策定委員会委員長、掛川市スポーツ振興事業検討委員会委員長、岡山市内の小学校PTAへの水泳監視に関する講座、保健体育の教員採用試験対策として実技（水泳）指導・座学（体育理論）指導、海水浴場における監視・清掃活動、オリンピック・パラリンピックの歴史と意義の展示会開催 など

【連携可能内容】 水難事故防止のための講義、静岡県内の海水浴場における監視・清掃活動、ジュビロ磐田との連携講座、磐田市のスポーツミュージアム等といった博物館等の創設、スポーツ振興事業の策定

【SDGsの視点での連携可能内容】 海水浴場の清掃・監視・救助活動、映像・アクティブラーニングを活用した質の高い教育、生涯スポーツに役立つ水泳指導、自身の研究活動をふまえたスポーツによる平和の重要性の提唱



和田 雅史 WADA Masafumi
わだ まさふみ

職位	専任教授
取得学位	医学博士
最終学歴	筑波大学大学院体育研究科健康教育学（修士課程）修了
専門分野	学校保健学、健康教育学、保健科教育学
所属学会	日本学校保健学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本国際理解教育学会、 日本教育保健学会、American School Health Association、 日本公衆衛生学会、日本健康教育学会
近年の研究テーマ	・中学校、高等学校保健科教育内容の選択構成原理についての研究 ・子どもの身体の異常やおかしさについての研究
検索ワード	健康、学校保健

研究概要

健康は人生の目的ではなく、 人生の目標達成のための資源である！

健やかなる心身の成長と健康の保持増進は、正しい健康科学の知識を学ぶことによる態度への変容とそれにつながる日々の生活における健康行動への実践化によって実現されるものです。

学校における健康教育を通して、子どもたち一人一人が自分自身の健康と安全を育み、健康の保持増進を達成するための科学的認識をいかにして身につけることができるのかを研究の目標としています。そのために、学校における健康教育の目的やねらい、教育内容や教育方法について検討したり、子どもたちの発育発達の状況や今日の健康課題について研究しています。

連携可能内容等

【過去の連携実績】

浜松市民アカデミー講座講師、日本学校保健学会保健教育共同研究

【連携可能内容】

- ・学校における健康教育の促進
- ・子どもたちへの健康科学の知識提供に関する取り組み

【その他】

磐田市健康づくり推進委員、東京都世田谷区健康増進委員

沿革

静岡産業大学は、静岡学園高等学校、静岡学園短期大学を母体として、関係地域の自治体等の要請を受けて1994(平成6年)に経営学部経営環境学科の1学部1学科の4年制大学として静岡県磐田市に開学し、その後、1998(平成10)年に静岡県藤枝市に国際情報学部国際情報学科を設置しました。2019(平成31)年には開学25周年を迎え、さらなる発展のために新学部設置の準備を始め、2021(令和3)年4月にスポーツ科学部スポーツ科学科(磐田キャンパス)を設置しました。

1965 (昭和 40) 年 12 月	学校法人第二静岡学園寄附行為認可 静岡学園高等学校設置認可
1966 (昭和 41) 年 4 月	静岡学園高等学校開校
1971 (昭和 46) 年 4 月	静岡学園高等学校理数科新設
1978 (昭和 53) 年 4 月	静岡学園中学校開校
1988 (昭和 63) 年 4 月	静岡学園短期大学〔経営情報科・英語科〕開学
1994 (平成 6) 年 4 月	静岡産業大学〔経営学部経営環境学科〕開学
1996 (平成 8) 年 4 月	静岡学園短期大学英語科 英語コミュニケーション学科に名称変更
1998 (平成 10) 年 4 月	静岡産業大学国際情報学部国際情報学科開設
1999 (平成 11) 年 12 月	静岡学園短期大学廃止認可
2001 (平成 13) 年 4 月	静岡産業大学経営学部情報マネジメント学科開設
2005 (平成 17) 年 4 月	静岡産業大学経営学部経営学科・スポーツ経営学科開設 静岡産業大学情報学部情報デザイン学科・国際情報学科開設
2009 (平成 21) 年 6 月	静岡産業大学国際情報学部国際情報学科廃止届出 静岡産業大学経営学部経営環境学科・情報マネジメント学科廃止届出
2011 (平成 23) 年 4 月	法人名を学校法人新静岡学園に変更 静岡学園高等学校教養科学科開設
2012 (平成 24) 年 4 月	静岡産業大学経営学部心理経営学科開設
2021 (令和 3) 年 4 月	静岡産業大学スポーツ科学部スポーツ科学科開設
2023 (令和 5) 年 7 月	静岡産業大学情報学部情報デザイン学科・国際情報学科廃止届出

【理念】

- 1.「東海に静岡産業大学あり」といわれる、小粒だがキラリと光る個性ある存在になる。新しい大学を創造し、大学の新しいモデルとなる。
- 2.豊かな教養と、高潔な倫理観、人間愛、社会に対する広い貢献意識を備えた職業人、社会のリーダーの育成に努める。21世紀の産業社会と国際社会の求める専門的職業教育を推進することに徹する。

【ミッション】

- 1.時代の先端的な教育を行うことを第一義的な使命とする。そのために先端的な水準の研究を行う。教育の品質と生産性を重視し、教育の質を保証する場とする。入学するには易しいが卒業するには難しいとされる大学を目指す。
- 2.自由、自主自立、自己責任、自己管理を尊重するとともに、積極性、チャレンジ精神を重視し、行動とボランティア精神を求める。公平さ、フェアネス、合理、人間愛を常に判断の基準とする。
- 3.学ぶ学生の能力を偏差値に求めず、偏差値では測定できない個々の学生の潜在能力を引き出し、開発することを重視する。個々の学生の夢、志が達成、成就できるよう支援、サポートする。
- 4.教員には教育のプロに徹することが求められる。少人数教育、個別指導をモットーとする。
- 5.新しい教育法、教育内容、教育水準により本大学の社会的地位を確立する。
- 6.地域社会の発展に寄与する教育、研究、情報、アイデア、サービス等の提供を通じて広く社会貢献を行う。社会一般と積極的にかかわり地域と住民、産業とともに発展、成長することを目指す。
- 7.人種、国籍、性、宗教、年齢等をベースにした制度、支援策、教育、評価などを導入しない。
- 8.教職員、学生全員が本学に属することに誇りを抱き、各自が高い質の生活と人生を享受できるよう互いに努力する。

【県民大学宣言】

- 1.静岡産業大学は、静岡県、磐田市、藤枝市、県内有力企業と多くの市民の支援の下に誕生し、静岡県、地域社会の為に貢献し得る有為な人材を育成、輩出することを付託された公器であることを常に念頭に置き、高水準の先端的な教育研究活動を展開します。
- 2.静岡産業大学は、大学の有する人材、教育力、研究力、知識、情報、アイデア、施設を広く提供し、静岡県、地域社会の発展に積極的に貢献します。
- 3.静岡産業大学は、静岡県、地域社会の発展に必要な知識、情報、アイデア、新産業の創造に積極的に取り組みます。
- 4.静岡産業大学は、産官学民各層の連携のもとに協力し合いつつ行動します。
- 5.静岡産業大学は、県民や、地域社会の住民が誇れる大学、“東海で小粒だがキラリと光るユニークな存在”になるよう常に進化、発展に努力します。

本学の現況

【大学名】 静岡産業大学(英文表記:Shizuoka Sangyo University, 略称:SSU)

【所在地】 藤枝キャンパス (経営学部) 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号
 磐田キャンパス (経営学部・スポーツ科学部) 静岡県磐田市大原1572番地1

【学部構成・取得学位】

学部名	学科名	学位
経営学部 School of Management	経営学科 Department of Management	学士(経営学)
	スポーツ経営学科(※) Department of Sports Management	学士(スポーツ経営学)
	心理経営学科 Department of Management Psychology	学士(心理経営学)
スポーツ科学部 Faculty of Sport Science	スポーツ科学科 Department of Sport Science	学士(スポーツ科学)

※学生募集停止

入学者数、収容定員、在学者数

(2023年5月1日現在)

学部名	収容定員	入学者数	編入学者数	在学者数			収容定員充足率
				男	女	合計	
経営学部 (藤枝キャンパス)(磐田キャンパス)	1,540人	231人	15人	1,209人	287人	1,496人	97.1%
スポーツ科学部 (磐田キャンパス)	360人	155人	1人	301人	74人	375人	104.2%
大学計	1,900人	386人	16人	1,510人	361人	1,871人	98.5%

※スポーツ科学部は2021(令和3)年度設置

出身高校の所在地県別入学者数

(2023年5月1日現在)

北海道	9人	栃木	1人	石川	3人	滋賀	0人	岡山	1人	佐賀	1人
青森	1人	群馬	2人	福井	1人	京都	0人	広島	3人	長崎	0人
岩手	0人	埼玉	0人	山梨	14人	大阪	5人	山口	5人	熊本	4人
宮城	2人	千葉	8人	長野	7人	兵庫	1人	徳島	0人	大分	2人
秋田	0人	東京	1人	岐阜	3人	奈良	0人	香川	1人	宮崎	1人
山形	0人	神奈川	4人	静岡	247人	和歌山	0人	愛媛	1人	鹿児島	10人
福島	0人	新潟	6人	愛知	9人	鳥取	1人	高知	2人	沖縄	10人
茨城	9人	富山	1人	三重	1人	島根	1人	福岡	1人	その他	7人
新入生 計386人											

過去4年間の留学生受け入れ状況

(2023年5月1日現在)

年度	2020(令和2)	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)
留学生在籍数	156人	193人	217人	241人
在籍学生数に占める割合	8.9%	10.6%	11.4%	12.9%

2023(令和5)年3月卒業生の就職状況

学部	学科	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率(%)
経営学部	経営学科	208人	176人	172人	97.7%
	スポーツ経営学科	126人	120人	116人	96.7%
	心理経営学科	55人	45人	45人	100.0%
経営学部計		389人	341人	333人	97.7%
情報学部	情報デザイン学科	12人	5人	4人	80.0%
	国際情報学科	8人	2人	2人	100.0%
情報学部計		20人	7人	6人	85.7%
合計		409人	348人	339人	97.4%

藤枝キャンパス

経営学部（経営学科、心理経営学科）



【施設利用に関する問い合わせ先】

総務課 電話：054-645-0191

（受付対応時間：平日8時30分～17時）



藤枝キャンパスはコンピュータ演習室などICT環境が充実しているのが特徴です。学習スペースとして、またはゼミ活動やプレゼン活動など、自由なスタイルで交流できるラーニングcommons「レガロ」は、ホワイトボードやプロジェクターを完備。誰でも利用が可能です。さらに、茶室「楽茶庵」や浦田周社木版画美術館、作品の展示スペースなど、文化や芸術に接する環境が整っています。学生や教職員が手掛けた作品も構内のいたるところに展示されているので、歩いているだけでたくさんの発見に出会えます。授業やクラブ・サークル活動、学校行事等で使用する時間を除き、学外の方も学内施設を利用することができます。

利用申請方法等の詳細は、藤枝キャンパスホームページでご確認ください。

磐田キャンパス

経営学部（経営学科、心理経営学科）

スポーツ科学部（スポーツ科学科）



【施設利用に関する問い合わせ先】

総務課 電話：0538-37-3851

（受付対応時間：平日8時30分～17時）



天然芝グラウンド2面、最新のトレーニング機器やさまざまな測定器を備えたスポーツセンターが3棟、その中で第3スポーツセンターには日本でも有数の体育競技とトランポリン競技全種目の練習設備を完備しています。また、保育士をめざす学生のためには、ピアノ練習室や音楽室、図画工作室、調理実習室など、さまざまな実習に対応できる「こども教育棟」があり、さらに資格取得の勉強やゼミ活動で自主的な勉強などに利用できる学習スペース「ラ・ヴィータ」など、文武両道の大学生活を送れる環境が充実しているのが特徴です。磐田キャンパスでは、学外の方にもスポーツ施設等を貸し出していますのでご利用ください。

なお、利用申請方法等の詳細は、磐田キャンパスホームページでご確認ください。

藤枝駅前サテライトキャンパス（BiViキャン）



【施設利用に関する問い合わせ先】

総合研究所 電話：054-639-7164

（受付対応時間：平日9時～17時）



静岡産業大学、藤枝市、地元企業との産学官連携により、地元産業の成長支援による稼ぐ力の向上と雇用拡大、学生等の人材育成と就職支援による地元定着を促進するため、各種取組のワンストップ拠点となる藤枝市産学官連携推進センターと、本学のサテライトキャンパスを一体的に運用する施設です。また、愛称の「BiViキャン」は、公募により本学の学生が考案したものが採用されました。藤枝市民に親しまれている「BiVi」に、Campusの「Cam」と「できる」「チャレンジする」といった「Can」を合わせ、軽やかで可能性を秘めた施設となるよう名づけました。

BiViキャンは市民や学生などが集い、ともに活動・交流の場として活用いただけます。利用申請方法等の詳細は、BiViキャンホームページでご確認ください。

静岡産業大学 総合研究所 (SSU Institute of Research and Development)

地域密着のシンクタンクとなると同時に、静岡産業大学の教育にも寄与することを目指し2012年4月に創設された総合研究所は、「地域社会の発展に寄与する教育、研究、情報、アイデア、サービス等の提供を通じて広く社会貢献を行う」という本学のミッションに沿い、静岡県の地域社会・産業界が求める研究、教育啓発活動を行うことを目的に取り組んでいます。

※詳細は大学ホームページ(<https://www.ssu.ac.jp/study-region/sird/>)でご確認ください。

【取扱い事業・例】

- ・教育・啓発 … 資格取得を目的とした講座の他、ビジネスや生活に役立つ教養講座を企画・実施しています。
- ・地域連携 … 行政機関や経済団体等が実施する研修プログラムへの講師派遣等を実施します。また、地域連携プラットフォーム「藤枝ICTコンソーシアム」の事務を担い、地域における人材連携を促進するための取り組み等も行っています。
- ・情報提供 … SSU総研ニュースや教員研究紹介冊子など地域の皆様の日々の活動の役に立つ情報を提供しています。
- ・SDGs啓発 … SDGsの観点から本学独自の教育・研究活動を高校生や大学生などに発信する取り組みを行っています。
- ・BiViキャン施設管理等 … BiViキャン施設の貸出し、予約受付などの管理業務も取り扱っています。

静岡産業大学総合研究所は、地域密着のシンクタンクとなると同時に、静岡産業大学の教育にも寄与することを目指し、2012年4月に創設されました。

総合研究所には、本学の教員はもちろん、学外の有識者なども研究員として所属し、自治体や企業、経済団体等から事業や研究の受託、また、みなさまと一緒に地域の未来を創造していくための講座やシンポジウム等を実施していきます。

何か新しいことを始めたいとお考えの方や、事業や研修、研究の依頼を希望される企業・自治体、経済団体等の方など、どうぞお気軽にご相談ください。

みなさまにとって最善な答えや解決策が見つかるよう、サポートさせていただきます。



大坪 檀
静岡産業大学総合研究所所長

2023(令和5)年度総合研究所客員研究員一覧

※五十音順にて記載 ※括弧内は研究員の専門分野を記載

分類	客員研究員氏名(専門分野)
ビジネス・データ分析系	青山芳之(スポーツ経営学)、久保田和夫(会計)、土居英二(経済学、統計学)、村松晴義(エフドア産業コーディネータ)、山崎克雄(海外ビジネス事情)、山本 操(企業支援、ITコーディネータ)、鷺崎早雄(経営情報学、経済工学)
地域学・地方自治・まちづくり系	天野浩史(NPO、まちづくり)、川口円子(静岡学)、川口良子(まちづくりデザイン)、酒井勇二(磐田学)、佐藤和枝(地域活性化)、杉 雅俊(産業振興)、谷 和実(静岡学、地方自治)、中村羊一郎(民俗学、お茶学)、望月 誠(産業振興)、山田 寧(地方自治)
教育学・心理学・人づくり系	浅羽 浩(学校教育学、社会教育学)、漁田武雄(心理学)、渡部 修(人づくり学、雑草学)

総合型地域スポーツクラブ「いわた総合スポーツクラブ」

キッズスクールやスポーツスクール等のさまざまなスポーツ活動を通じて、地域貢献を継続的に実施してきたことにより、総合型地域スポーツクラブ設立の機運が高まり、2016年12月に、磐田市、磐田南地区自治会、磐田南交流センター、NPO法人磐田スポーツ協会、浜松磐田信用金庫、株式会社ジュピロ、磐田東高等学校の協力を得て「いわた総合スポーツクラブ」を設立しました。学内に、いわた総合スポーツクラブ事務局を設置し、大学が持つ資産を活用して、①スポーツの普及、②人材育成(スポーツ指導者、選手)、③地域貢献に取り組んでいます。

※詳細は大学ホームページ(<https://www.ssu.ac.jp/study-region/sports-club/>)でご確認ください。

キーワード検索

ア行					
		感性教育	38	行動経済学	12
		感性工学	36	コーチング	48
IoT	21	感性評価	36	コーポレートガバナンス	15
ICT	21	感性マーケティング	36	国際関係	10
ICT活用法	27	管理会計	28	国際経済	18
アジア経済	18	記憶の心理学	42	国際復帰	67
アンケート調査	31	企業金融	41	骨格筋	52
意思決定	19	企業結合	11	子ども	34・48
遺伝子改変動物	47	企業比較	49	子どもの居場所	45
異文化	57	記号学	10	子どもの食育	42
異文化理解	23	技術・経営移転	49	コミュニケーション	39・61
因果関係の認知	35	キャリア	14	コンディショニング	64
インターンシップ	32	キャリア教育	32		
ウェルビーイング	12	教育学	58	サ行	
運動	53	教育史	58	財務管理	41
運動遊び	48	教育実習	54	財務諸表分析	43
運動指導	51	教育方法	58	サッカー	64
運動能力の測定と評価	59	教員・保育者のキャリア形成	42	産業政策	9
運動部活動	54	教職課程	29	CSV	24
映像制作	13	共生社会	45	GDP統計	31
映像メディア	58	曲線描画法	36	GPS	64
AI(人工知能)	19・21・22	筋活動	52	資格取得	11
SNSマーケティング	27	近代	57	自己肯定感	65
SDGs	22・50	筋肉痛	52	自殺	39
遠隔授業	19	グローバル化	44	自治体経営	16
応用言語学	30	経営者	15	就職支援	32
オリンピック	67	経営戦略	22	生涯学習	65
音楽遊び	33	経営分析	43	障害児保育	34
		経済波及効果	31	障害者雇用	34
カ行		言語	57	商業教育	29
		健康	52・68	情報教育	21
会計	43	健康維持	61	女性活躍	44
外国人労働者	18	健康スポーツ	51	新公共経営	20
語り	57	健康づくり	62	人工知能	19
学校教育	29・65	言語テスト	30	人材開発	44
学校体育	54	圏論	17	人事	44
学校保健	68	公益法人	28	心理	39
ガバナンス	28	高等学校	29	水難事故	67
環境経済	40	高等教育	32	随伴性判断	35
観光経済	40	行動経済	41		



静岡産業大学



藤枝キャンパス[経営学部]
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号
TEL.054-645-0191(代表)

藤枝駅前サテライトキャンパス(BiViキャン)
〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7番10号
TEL.054-639-7164(代表)



磐田キャンパス[経営学部・スポーツ科学部]
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1号
TEL.0538-37-0191(代表)